

IDWR

2025年第 21 週(5 月 19 日~5 月 25 日)

静岡県

Infectious Diseases Weekly Report Shizuoka

感染症週報

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に
基づく感染症発生動向調査より

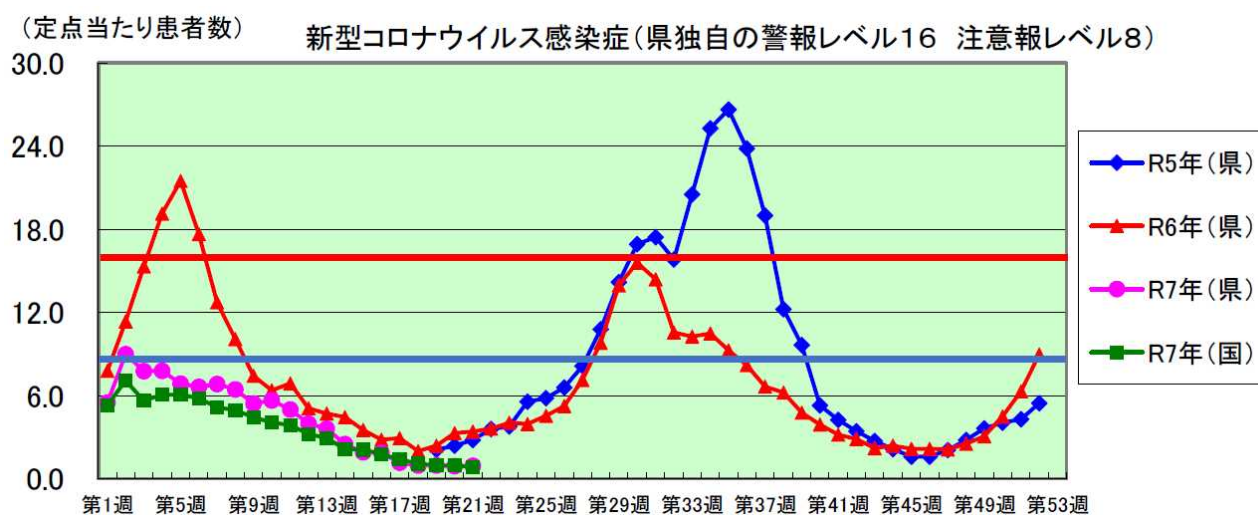
作成 静岡県健康福祉部感染症対策課／静岡県環境衛生科学研究所

(2025年 5 月 30 日公開)

新型コロナウイルス感染症はゆっくりと下がっています(第 21 週 0.93)

第 3 週(1/13~1/19)の定点当たり患者数は 7.77 と注意報基準値の8を下回ったため、感染拡大注意報を解除しました。第3週以降、定点当たり患者数は8人台から1人前後へゆっくり下がってきました。しかし、県内の新型コロナウイルスは、今年2月以降、流行している株が KP.3 系統から XEC 系統に徐々に入れ替わってきています。重症者が増えるという情報はありますが、去年の秋以降 KP.3 系統にかかった人が、再度 XEC 系統にかかる可能性があります。

県民の皆様には、引き続き、咳エチケットや換気、手洗いといった感染拡大防止対策に御協力をお願いします。



RS ウイルス感染症が流行しています(第 21週 0.19)

RSウイルス感染症の定点医療機関当たり 1 週間の報告数が、第 10 週において 1.07 人と1を超えたので、県は流行期に入ったと判断しました(RSウイルス感染症には、国が定める注意報や警報の基準値はありませんが、静岡県では 0.5 で「流行が始まる可能性あり」、1 以上で「流行期に入っている」と考えています。)

静岡県内のRSウイルス感染症の定点医療機関当たり 1 週間の報告数は、第 5 週(1 月 27 日～2 月 2 日)に 0.64 で、0.5 を超え、その後も 0.5～0.8 付近を推移していましたが、第 19 週は 0.2 台に下がりました。県内の患者の年齢は、80%以上が 2 歳以下です。過去には、いったん1以上となると、11～18 週間1以上の流行が続いています。なお、昨年 2024 年に1以上だった期間は、第 16 週(4 月 15 日～21 日)から第 32 週(8 月 5 日～11 日)までの 17 週間でした。

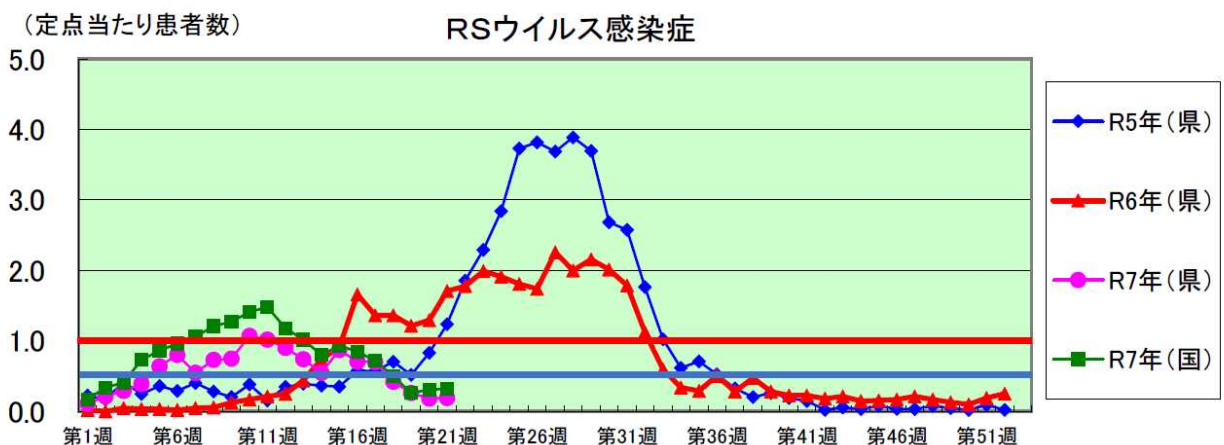
RSウイルス感染症は、飛沫感染(咳、くしゃみの飛び散り)や接触感染(鼻水や痰、だ液等を触る)でうつります。うつってから発症するまでの潜伏期間は約 5 日、人にうつす感染期間は発症後約 1 週間です。

症状は、発熱、咳、鼻水、喘鳴(ゼーゼー、ひゅーひゅーの呼吸)です。年長児や成人では、軽いかぜ症状ですむ場合も多いですが、乳児早期(特に 2 か月以下の赤ちゃん)に感染した場合は、急性細気管支炎や肺炎となり、哺乳低下や呼吸困難で入院したり、さらには人工呼吸管理を要したりすることもあります(感染した乳幼児の約 30 人に 1 人は入院するという報告もあります)。

RSウイルス感染症専用の有効な治療法はなく、水分補給の点滴や酸素投与などの対症療法のみです。赤ちゃんがいる家庭では、かぜ症状のある方から赤ちゃんにうつさないようにマスク着用や手洗いを励行してください。赤ちゃんが、咳鼻水やゼーゼーで、ミルクの飲む量が減ってきたら、早めに小児科医院を受診しましょう。

この感染症の詳しい説明は、国立健康危機管理研究機構(JIHS)の感染症情報提供サイトを御覧ください。

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/rs/010/rs-intro.html>



百日咳が流行しています(第 21週40人)

第6週(2/3～)以降、1週間に1～2人の百日咳患者が県内医療機関から報告されることが多くなっていましたが、第14週(3/31～4/6)に5人となり、第15週(4/7～4/13)は21人と急増しました。第21週(5/19～5/25)は40人となり、全数把握感染症となった2018年以降の最高値となりました。(これまでの過去最高値は、2018年第34週(8/20～8/26)の34人です。)コンコンという咳が連発してよる眠りにくい場合には、マスク可能な方は着用して、早めに受診しましょう。

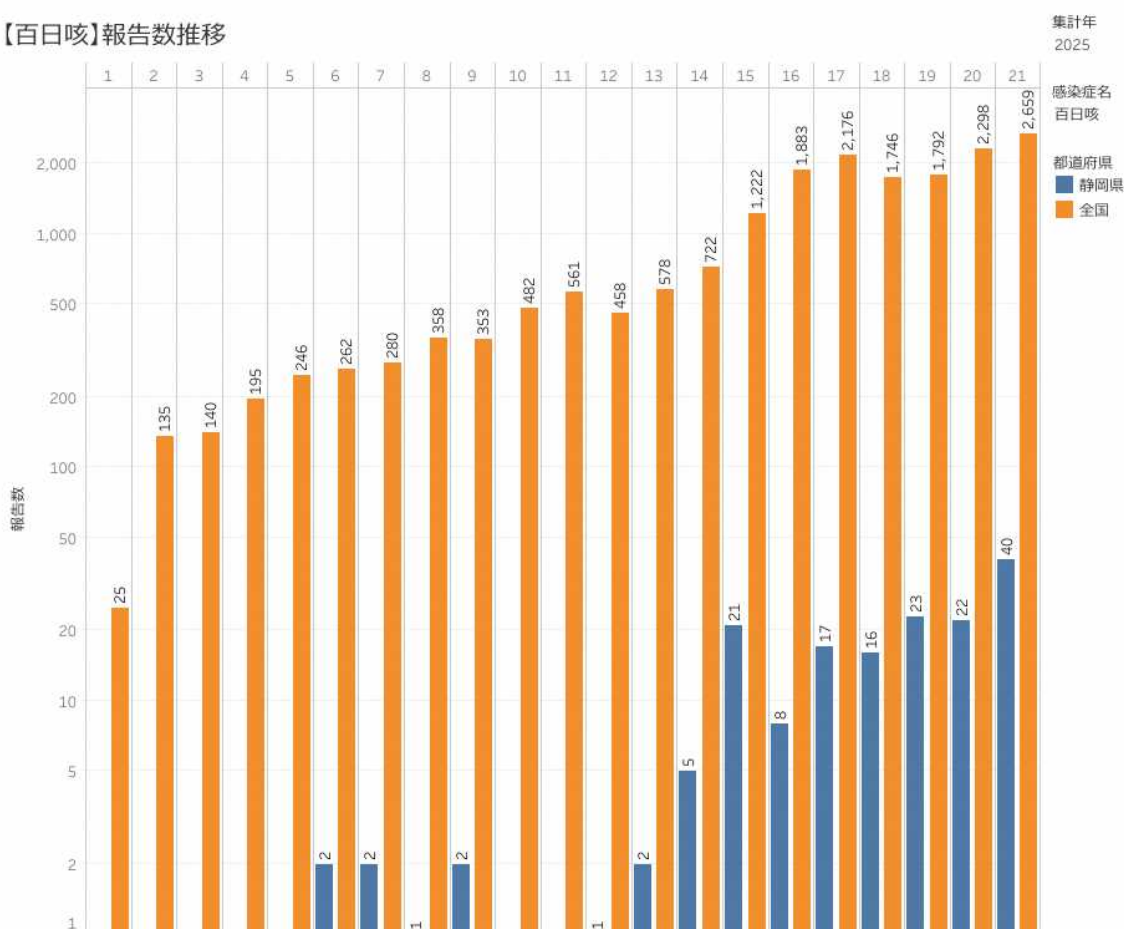
年齢分布では10～14歳が最多で、続いて5～9歳が多くなっています。百日咳を含むワクチンをまだ打っていない赤ちゃんがいる家庭で、兄弟が咳症状がある場合には赤ちゃんに近づかないようにしてください。

なお、生後6か月以下の赤ちゃんが百日咳にかかると呼吸がしにくくなるなど重症になる場合がありますので、2か月になったらすぐに5種混合ワクチン(百日咳ワクチンを含んでいます)を接種しましょう。また、咳のひどい人は赤ちゃんの世話を避けることも大切です。

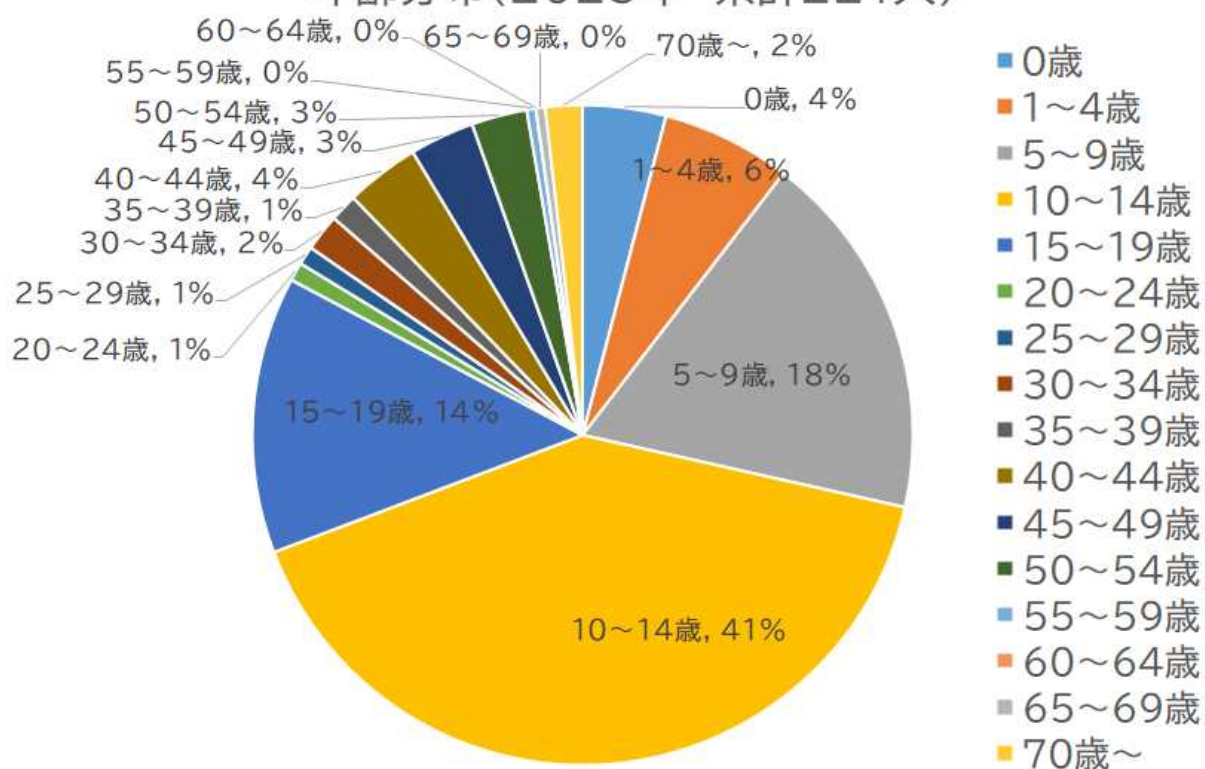
この感染症の詳しい説明は、国立健康危機管理研究機構(JIHS)の感染症情報提供サイトを御覧ください。

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/pertussis.html>

【百日咳】報告数推移



年齢分布(2025年 累計221人)



伝染性紅斑の警報レベルが継続しています(第21週 3.07)

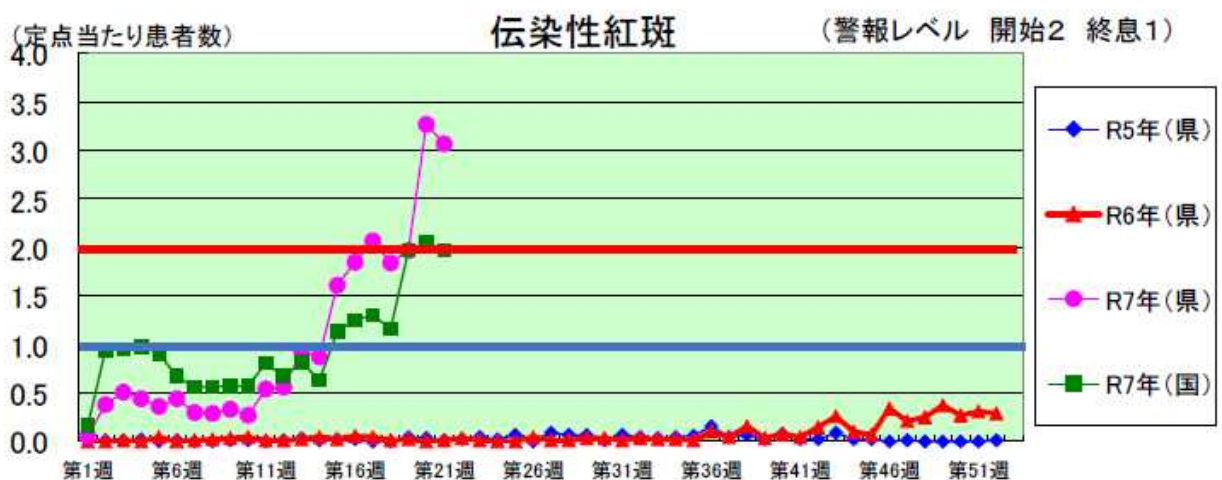
伝染性紅斑が、第3週(1/13～1/19)の0.51以来、0.5を超えることが続いていましたが第17週(4/21～4/27)に警報基準値の2を超えました。(警報レベルは終息基準値の1を下回るまで継続しますので、現時点も警報レベルです。)

警報レベルとなったのは、2011年第25週(6/21～6/27)以来で、その時は第28週(7/12～7/18)まで継続しました。**2025年第20週には3.27となり、記録が残る2006年以降の最高値となりました。(これまでの過去最高値は、2011年第25週(6/20～6/26)の2.57です。)**

直近の県内では、伝染性紅斑にかかる人は3～9歳の子どもが主になっています。子どもがかかっても、軽い風邪症状のあと、両頬や腕に淡いピンクの発疹が出ては消えるだけのことがほとんどで心配は要りません。

妊婦さんがかかると赤ちゃんがしんどくなることがありますので、妊婦さんで多数の子どもに接する方は、かからないようにマスク着用が望ましいです。

家族が伝染性紅斑になった場合、妊婦さんは産科医院に相談してください。

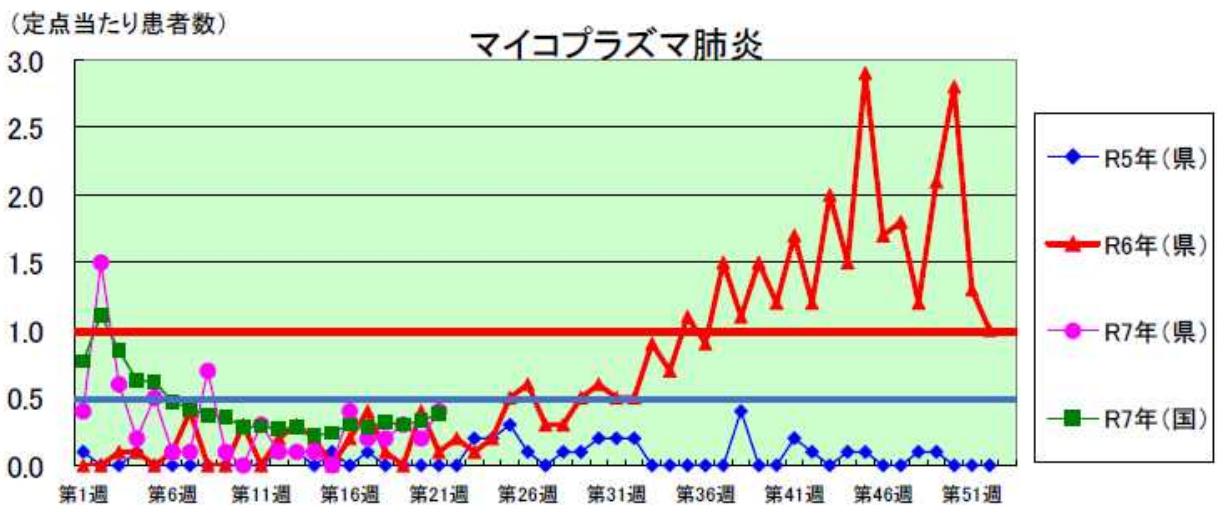


マイコプラズマ肺炎が流行しています(ゆっくりと下がってきました)

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによる細菌感染症です。感染経路は、主に飛沫感染と接触感染で、家族内や学校など濃厚接触が多い場所で、しばしば集団発生が起こります。潜伏期間は2～3週間程度で、主な症状は発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などで、解熱後も咳が長く続くことがあります。必ずしも肺炎にならず、上気道炎や気管支炎も多いです。全年齢層に感染が見られますが、若年齢層に多く、14歳以下が6～8割を占めます。過去の疫学調査研究では、3～7年程度に1回国内で大きな流行が起こっています。

2024年第29週(7/15～7/21)以降、定点当たり患者数※0.5以上が続き、第35週(8/26～9/1)は1.1となりました。(第21週は0.4)国は基準値を定めていませんが、県感染症情報センターでは、0.5以上が継続した場合、流行が始まる可能性あり、1以上では確実に流行していると考えています。(県内の定点当たり患者数が1以上となったのは、2019年第51週(12/16～12/22)以来です。)今年2025年に入ってから、第2週(1月6日～12日)に1.5まで上昇しましたが、その後は0～0.7(平均0.2)で推移しています。

マイコプラズマ肺炎の過去の流行では、1、2年間にわたって患者数が多い期間が続いていますので、県民の皆様には、引き続き、人混みでのマスク着用、咳エチケット、適切な換気と手洗いなど、飛沫・接触感染の対策に御協力をお願いします。



感染症発生動向調査

令和7年第21週(5/19～5/25)の動向

警報・注意報・流行期入りの目安

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、都道府県衛生主幹部局や保健所など第一線の衛生行政機関の専門家に向け、データの何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにあります。

ほとんどの感染症では、時間の経過とともに流行が地域的に拡大あるいは移動していくことから、流行拡大を早期に探知するためには、小区域での流行状況を広域的に監視することが重要と考えられます。

「警報レベル」は、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示します。

「注意報レベル」は、流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

「警報レベル」は、1週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未滿で終息します。

「注意報レベル」は1週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合です。警報・注意報レベルの基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、下記の通り定められています。

インフルエンザには、「流行期入りの目安」として、「1」があります。

1週間の定点医療機関あたり報告数が1を上回ると、インフルエンザが流行期に入ったと考えられます。ただし、あくまでも目安であり、1週のデータのみで判断するのではなく継続的に推移を確認して判断することが重要です。

【五類感染症（定点把握）の追加：急性呼吸器感染症（ARI）】

将来的なパンデミックに備え、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等、すでに感染症発生動向調査の対象疾病となっている感染症以外が原因となる急性呼吸器感染症の発生傾向や発生水準を把握する目的で、急性呼吸器感染症（ARI）が、五類定点把握感染症に追加されることとなりました。（令和6年11月29日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正 令和7年4月7日施行）

令和7年第15週から急性呼吸器感染症（ARI）も報告の対象となっています。

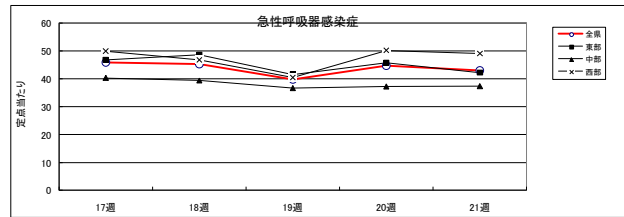
疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10.0
咽頭結膜熱	3.0	1.0	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—
感染性胃腸炎	20.0	12.0	—
水痘	2.0	1.0	1.0
手足口病	5.0	2.0	—
伝染性紅斑	2.0	1.0	—
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0

【今週のコメント】

第21週(5/19～5/25)の感染症発生動向調査では、急性呼吸器感染症（ARI）の定点当たり報告数は43.07人となり、前週の44.7人から減少しました。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3.07人となり、前週の3.27人から減少しましたが、前週から2週連続で警報レベルの開始基準値2を越えました。

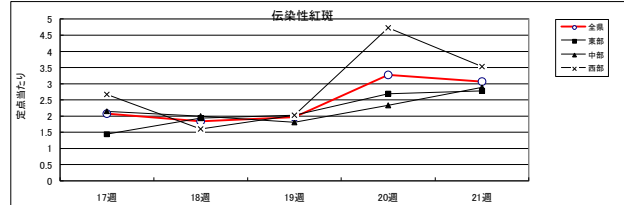
【急性呼吸器感染症】

全県で罹患数5,987、定点当たり43.07の患者発生があり、前週の44.7から減少した。定点当たり東部地区で42.24、中部地区で37.36、西部地区で49.06の患者が発生した。



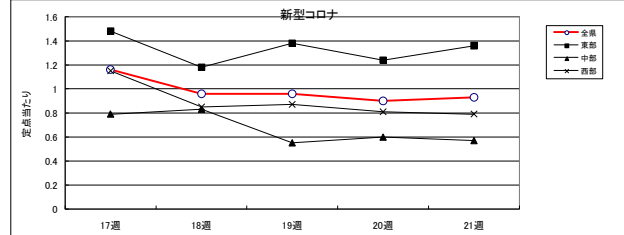
【伝染性紅斑】

全県で罹患数273、定点当たり3.07の患者発生があり、前週の3.27から減少した。定点当たり東部地区で2.78、中部地区で2.89、西部地区で3.53の患者が発生した。全地区で、警報レベルの開始基準値2を越えた。



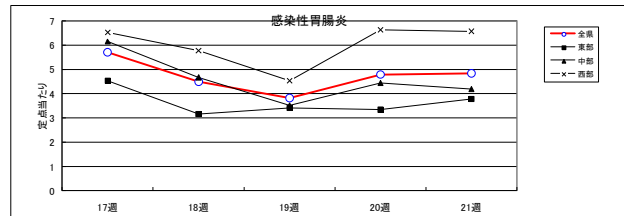
【新型コロナ】

全県で罹患数129、定点当たり0.93の患者発生があり、前週の0.9から若干増加した。定点当たり東部地区で1.36、中部地区で0.57、西部地区で0.79の患者が発生した。



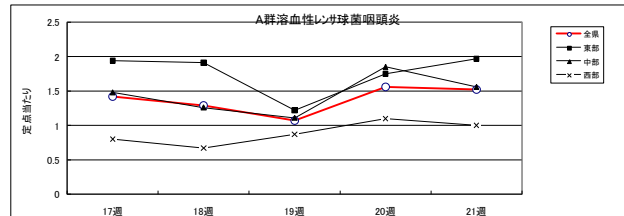
【感染性胃腸炎】

全県で罹患数431、定点当たり4.84の患者発生があり、前週の4.79から若干増加した。定点当たり東部地区で3.78、中部地区で4.19、西部地区で6.57の患者が発生した。



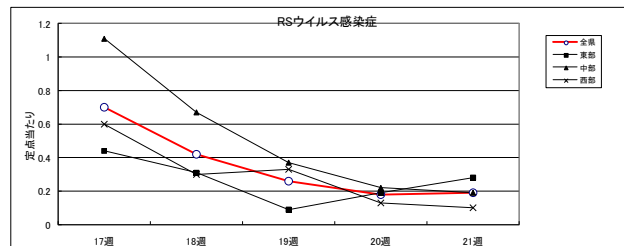
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

全県で罹患数135、定点当たり1.52の患者発生があり、前週の1.56から若干減少した。定点当たり東部地区で1.97、中部地区で1.56、西部地区で1.0の患者が発生した。



【RSウイルス感染症】

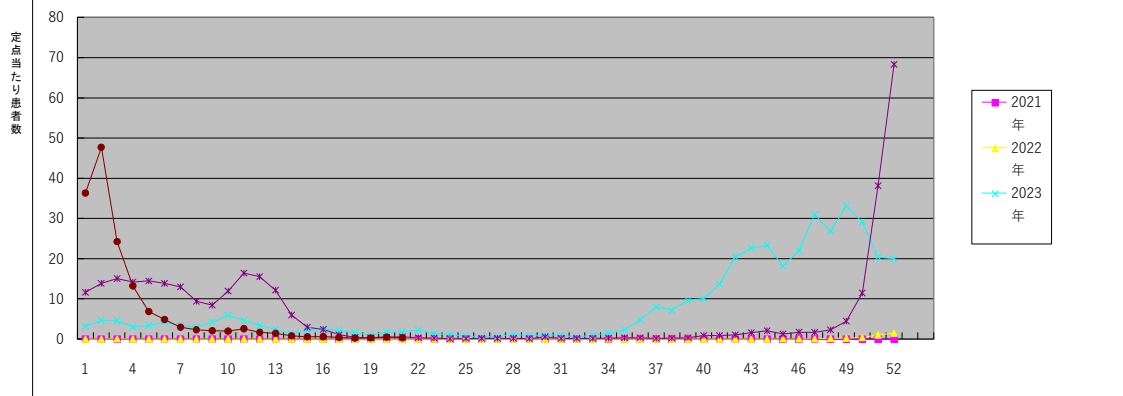
全県で罹患数17、定点当たり0.19の患者発生があり、前週の0.18から若干増加した。定点当たり東部地区で0.28、中部地区で0.19、西部地区で0.1の患者が発生した。



【その他】

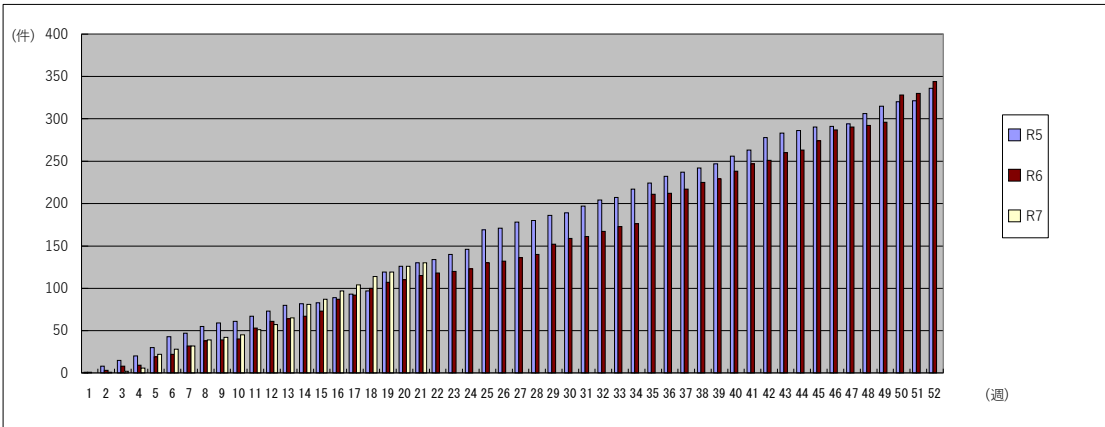
- ・麻疹、風疹は患者発生なし。
- ・全国のインフルエンザの定点当たりの患者報告数は0.53で前週の0.75から減少した。
- ・全国の新型コロナの定点当たりの患者報告数は0.84で前週の0.96から減少した。
- ・静岡県において第21週に定点当たり患者報告数の多かった疾病は、順に1)急性呼吸器感染症(43.07)、2)感染性胃腸炎(4.84)、3)伝染性紅斑(3.07)、4)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(1.52)、5)流行性角結膜炎(0.5)、6)咽頭結膜熱(0.38)であった。

【インフルエンザ罹患数推移】



【梅毒の発生状況(静岡県・累計)】

・第21週は前年同期比1.13倍であった。



急性呼吸器感染症（ARI）について

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが始まりました。

急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスは、症例定義に一致する患者数の発生を把握する症候群サーベイランスです。

平時から、①流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、②未知の呼吸器感染症が発生し増加し始めた場合に迅速に探知する体制の整備、③国内の急性呼吸器感染症の発生状況について、県民や医療関係者の皆様へ情報が共有できる体制を整備するために、急性呼吸器感染症が5類感染症となりました。

症例定義

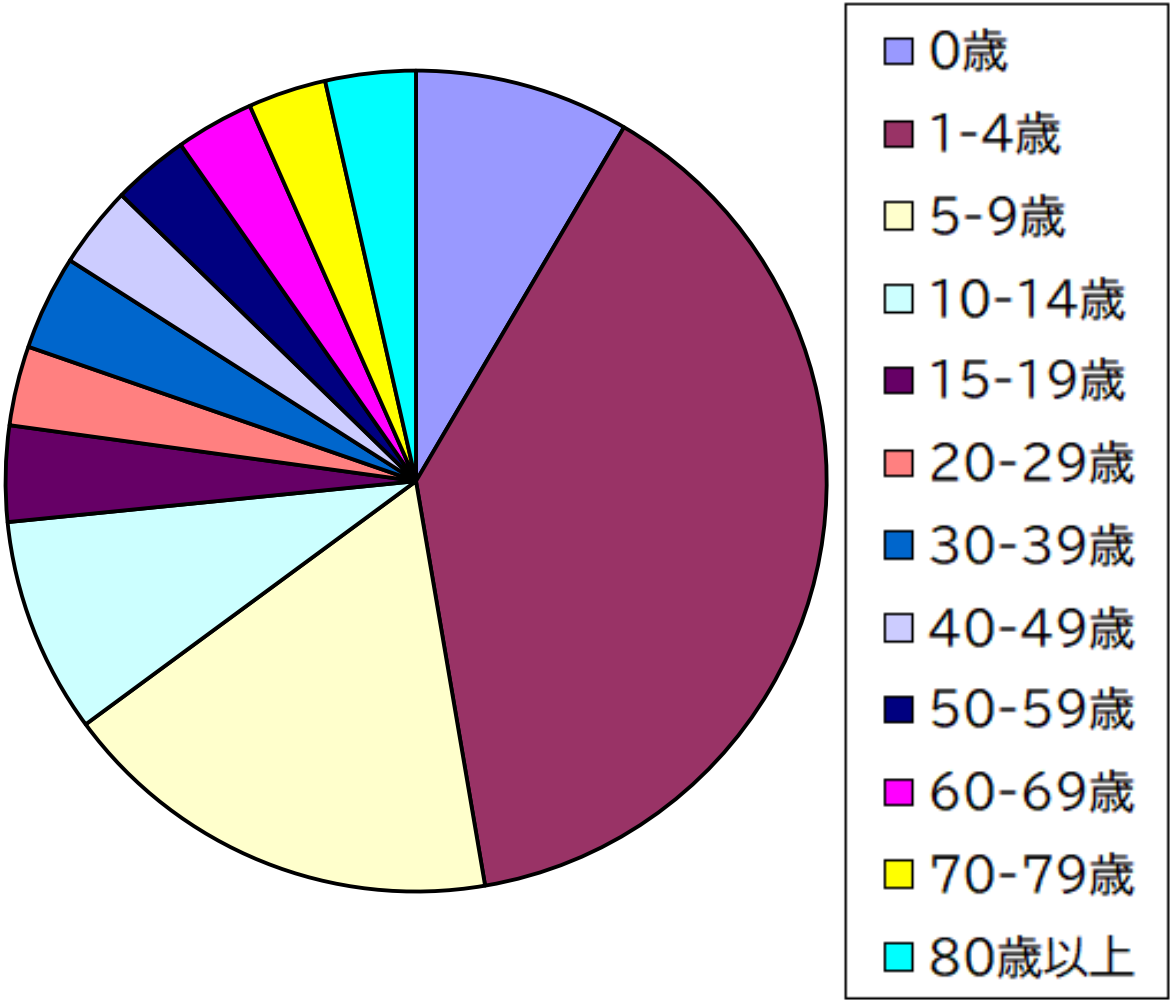
咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ異常の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

保健所別急性呼吸器感染症(ARI)報告数

報告数は県内139の定点医療機関からの報告数です。

管轄保健所	報告数	定点当たり
県合計	5,987	43.07
賀茂	66	22.00
熱海	135	22.50
東部	686	34.30
御殿場	641	106.83
富士	584	38.93
静岡市	846	33.84
中部	723	42.53
西部	1,002	52.74
浜松市	1,304	46.57

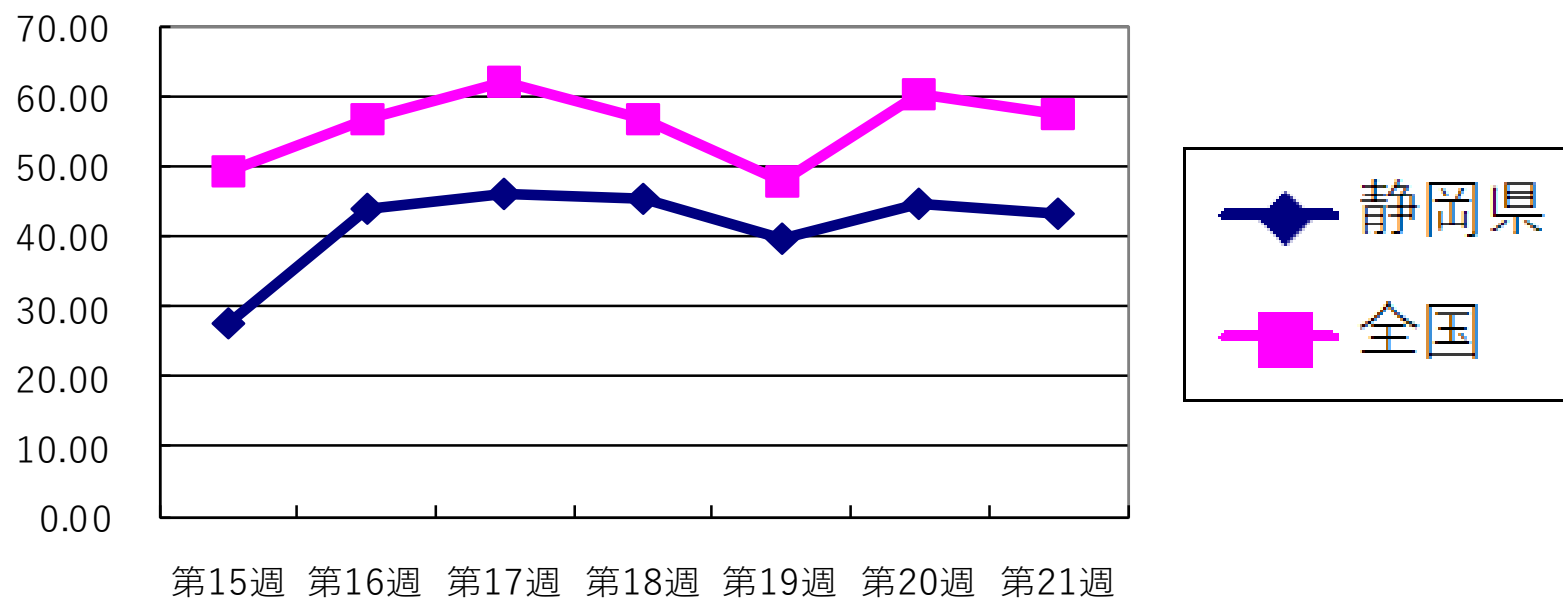
(全国 57.29)



年齢別報告割合(2025年第15週以降累計)

0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
8.5%	38.9%	17.6%	8.5%	3.8%	3.1%	3.7%	3.2%	3.0%	3.1%	3.1%	3.6%

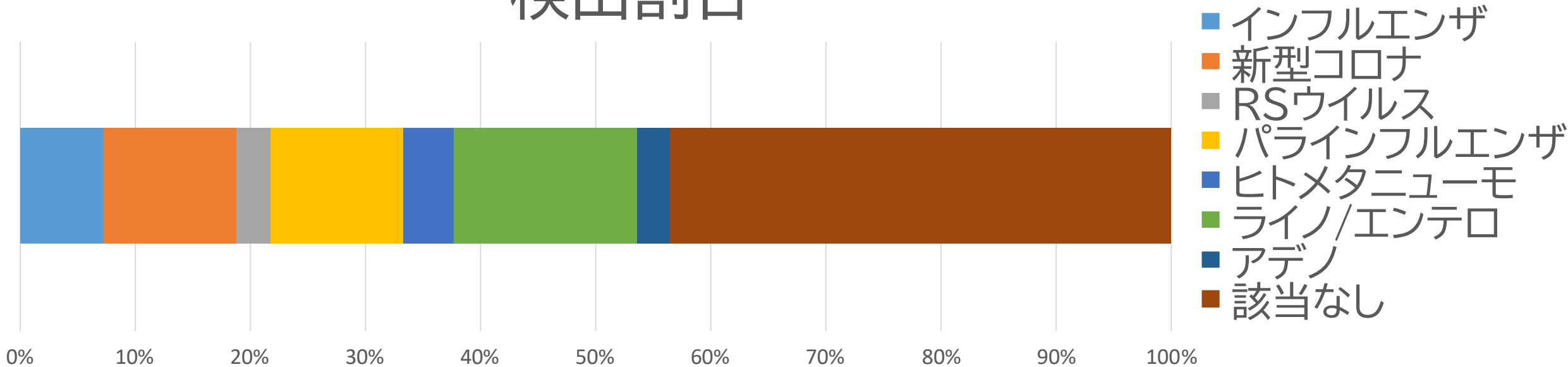
保健所別急性呼吸器感染症(ARI) 定点当たり報告数推移



	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週
静岡県	27.44	43.88	45.90	45.23	39.73	44.70	43.07
全国	49.38	56.58	62.18	56.51	47.63	60.26	57.29

県内の急性呼吸器感染症病原体定点から提出された検体の 検査結果について

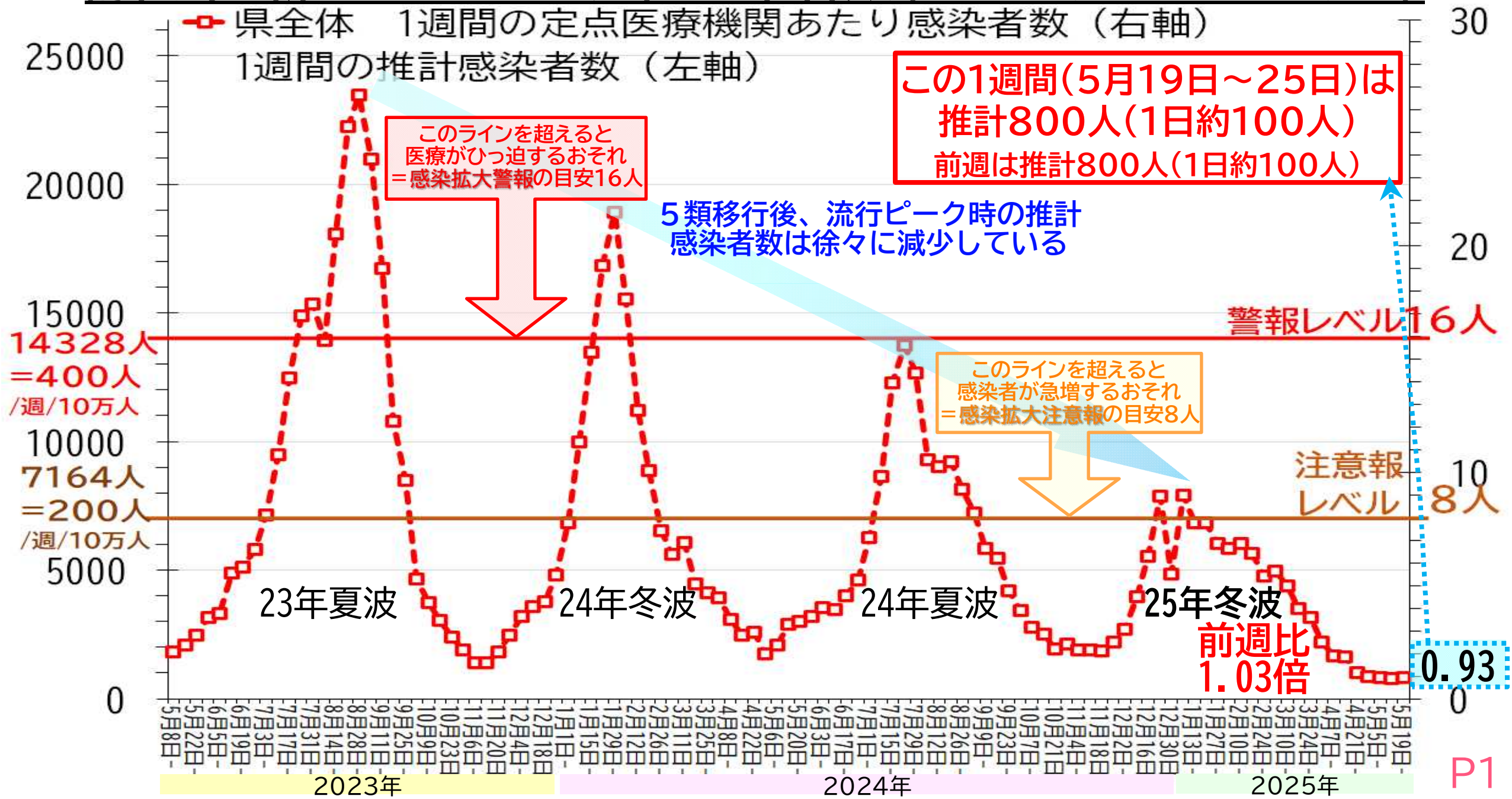
検出割合



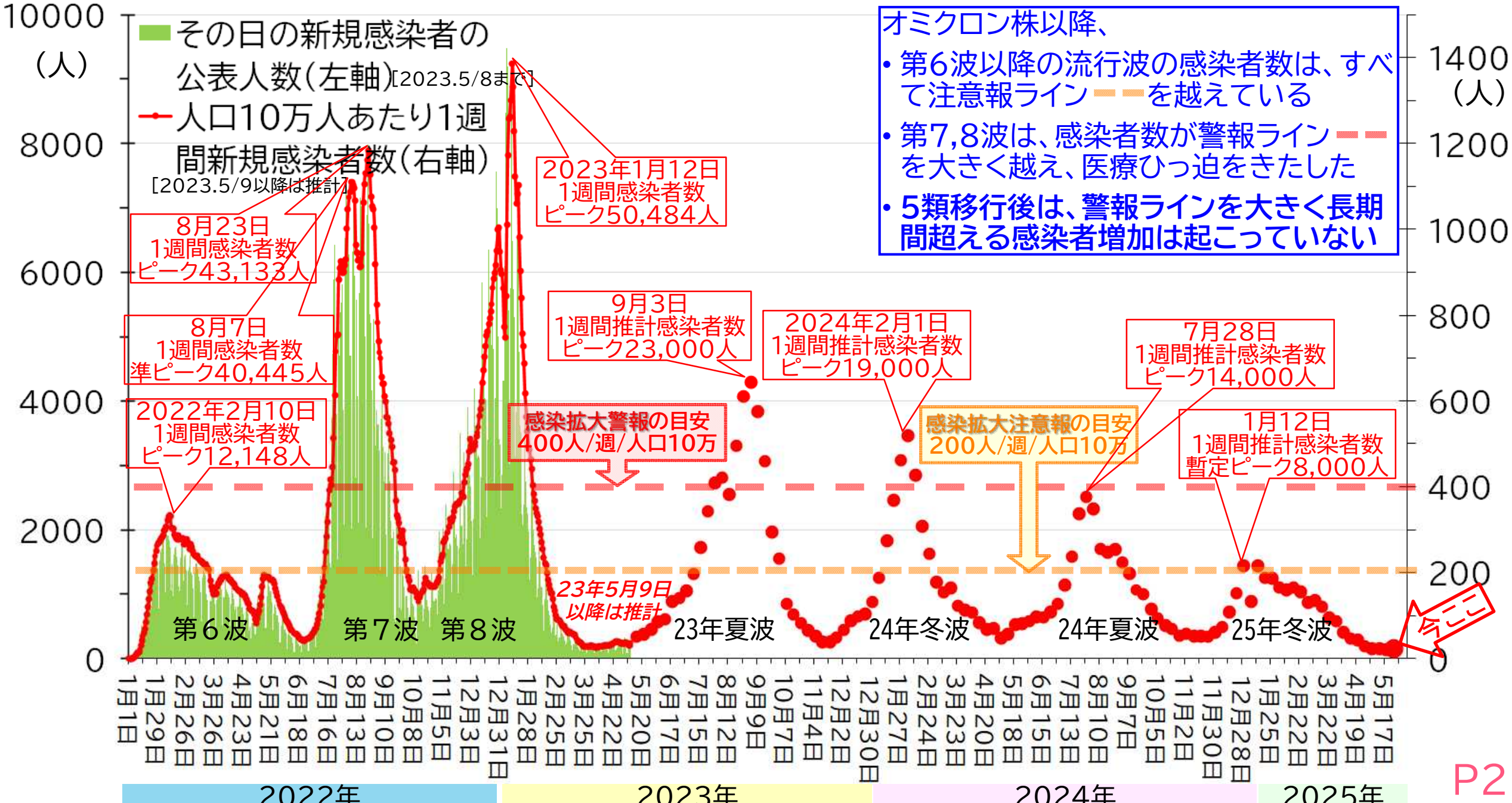
検出割合、検出数合計は2025年第15週～第21週の合計(4/7～5/25)

病原体	インフルエンザ	新型コロナ	RSウイルス	パラインフルエンザ	ヒトメタニューモ	ライノ/エンテロ	アデノ	該当なし
検出割合	7.2%	11.6%	2.9%	11.6%	4.3%	15.9%	2.9%	43.5%
検出数合計	5	8	2	8	3	11	2	30
2025年21週	1	2	1	3	0	3	0	5

静岡県 新型コロナ 1週間感染者数(2023.5/8~2025.5/25)



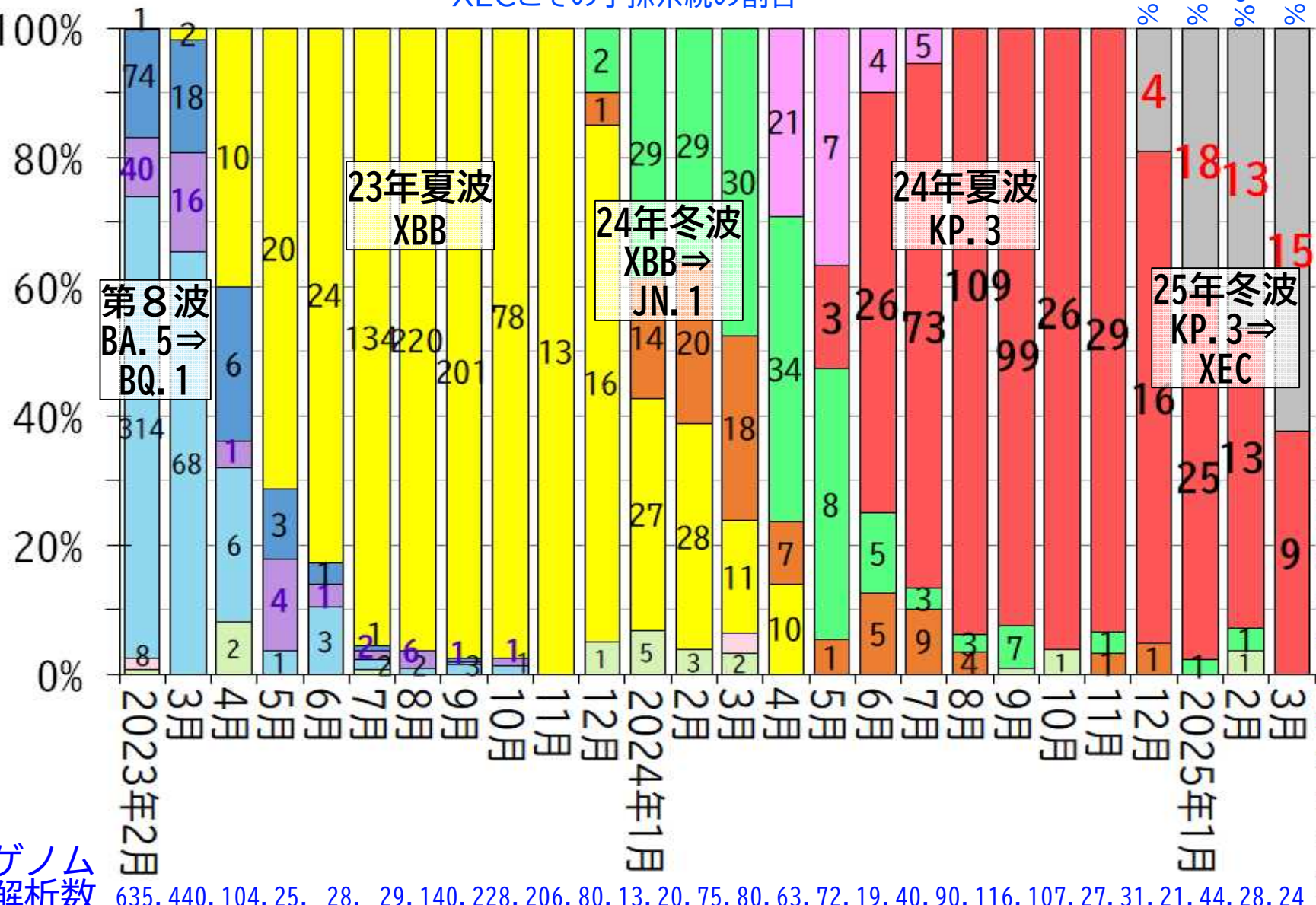
静岡県 新型コロナ オミクロン株以降の感染者数の推移 (2022.1/1~2025.5/25)



静岡県 新型コロナ オミクロン株の系統 月別状況 (2023.2月～2025.3月)

〔政令市を含む県全体〕

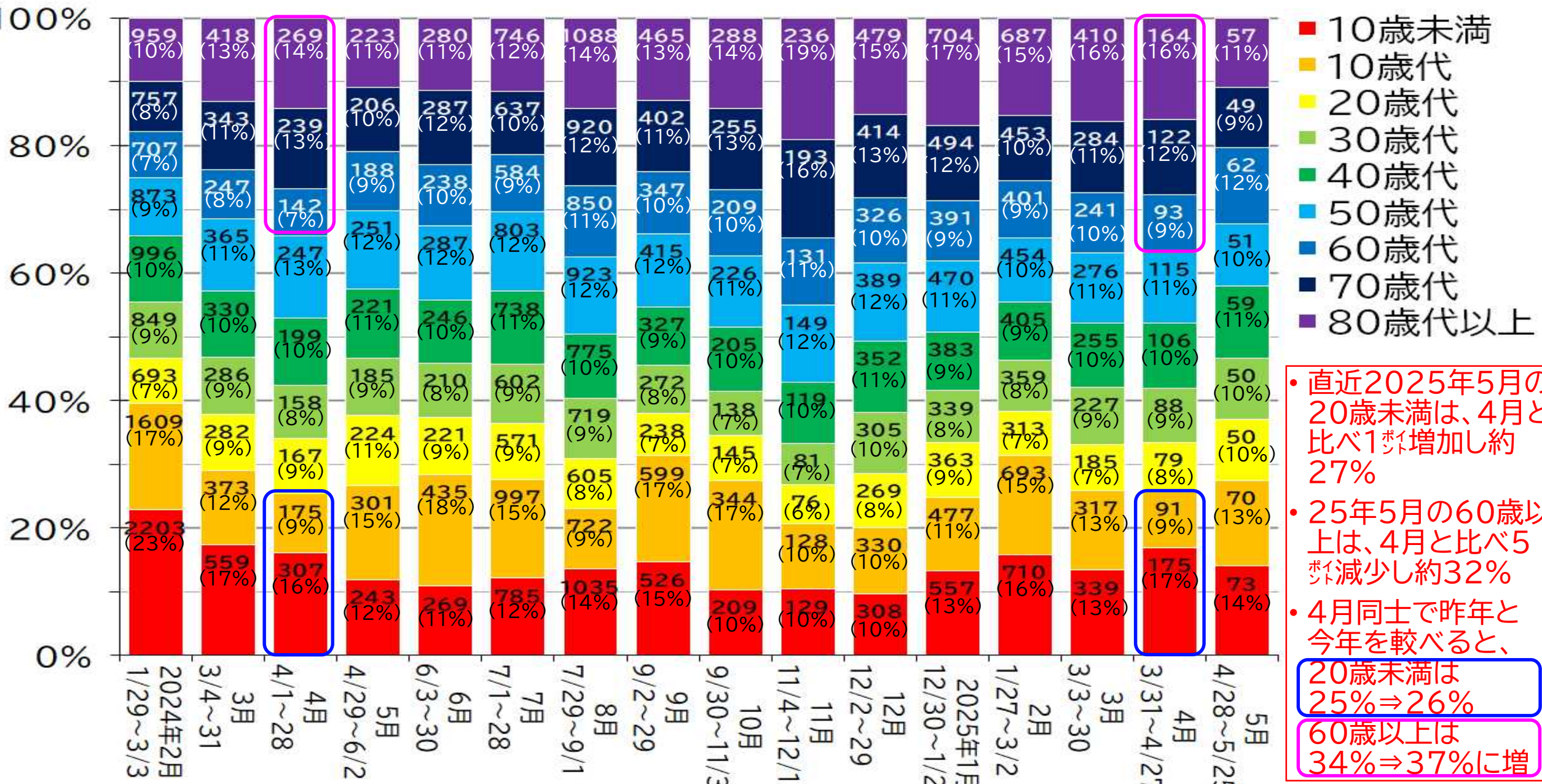
KP.3とその子孫系統の割合
XECとその子孫系統の割合



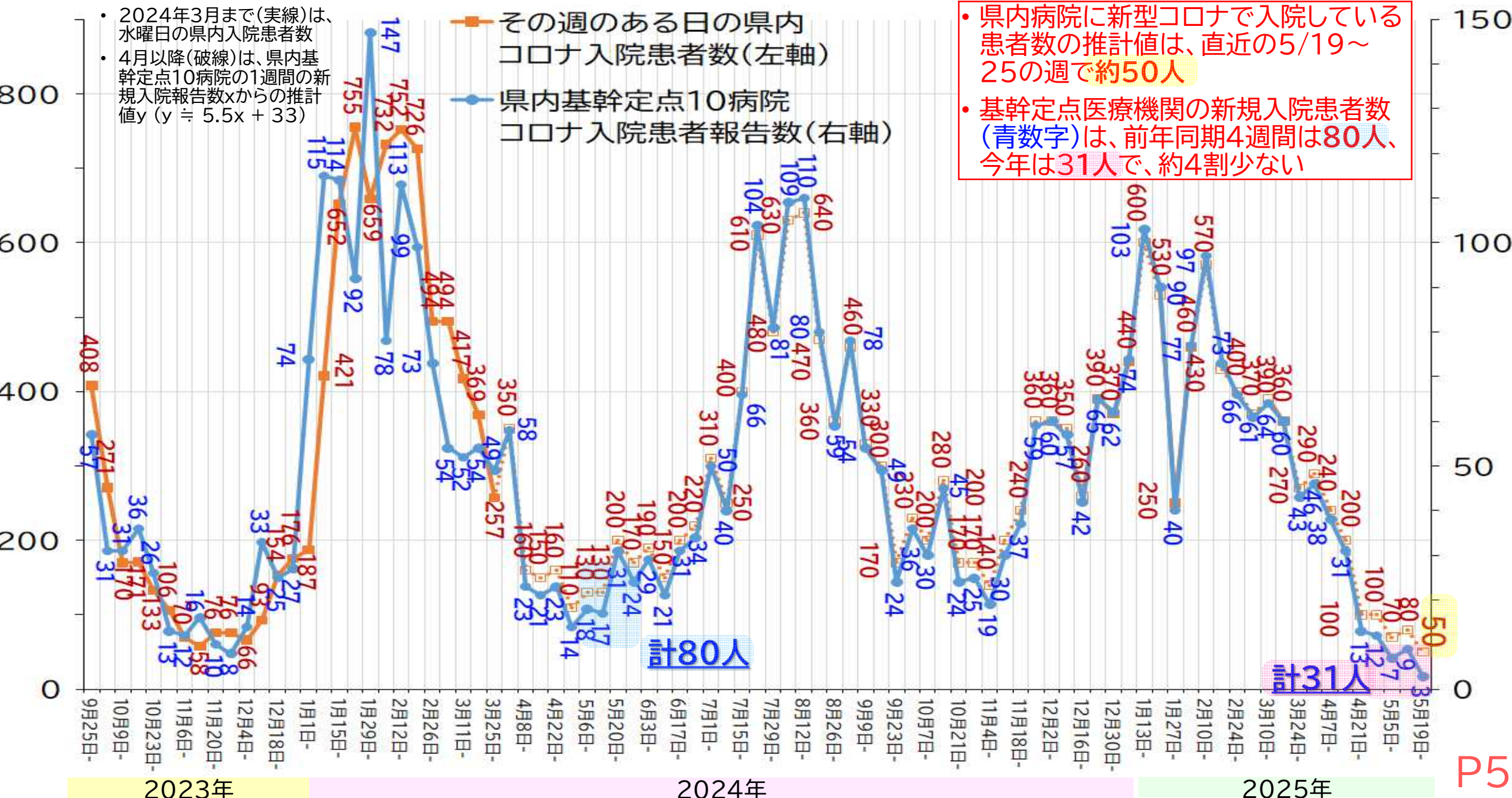
- 国立感染症研究所が、中和抗体からの逃避や感染者数増加の優位性が示唆されなどで、動向を注視する必要があるとしたオミクロン株の系統等の検出状況を示す
- 直近(2025.2/24～3/23)では県全体で、BA.2.86系統が9検体(37%)検出されたが、そのすべてはKP.3系統で、残りはXEC系統が15検体(63%)で、今回初めてXEC系統がKP.3系統を上回った
- 検体採取は結果判明の約2週間前

■ XECとその子孫系統
■ XDQ.1とその子孫系統
■ KP.3とその子孫系統
■ JN.1とその子孫系統
■ JN.1, KP.3以外のBA.2.86系統
■ XBB系統
■ BQ.1系統
■ BS.1系統
■ BA.2.75系統
■ その他のBA.5
■ その他のBA.2
■ その他の組替体

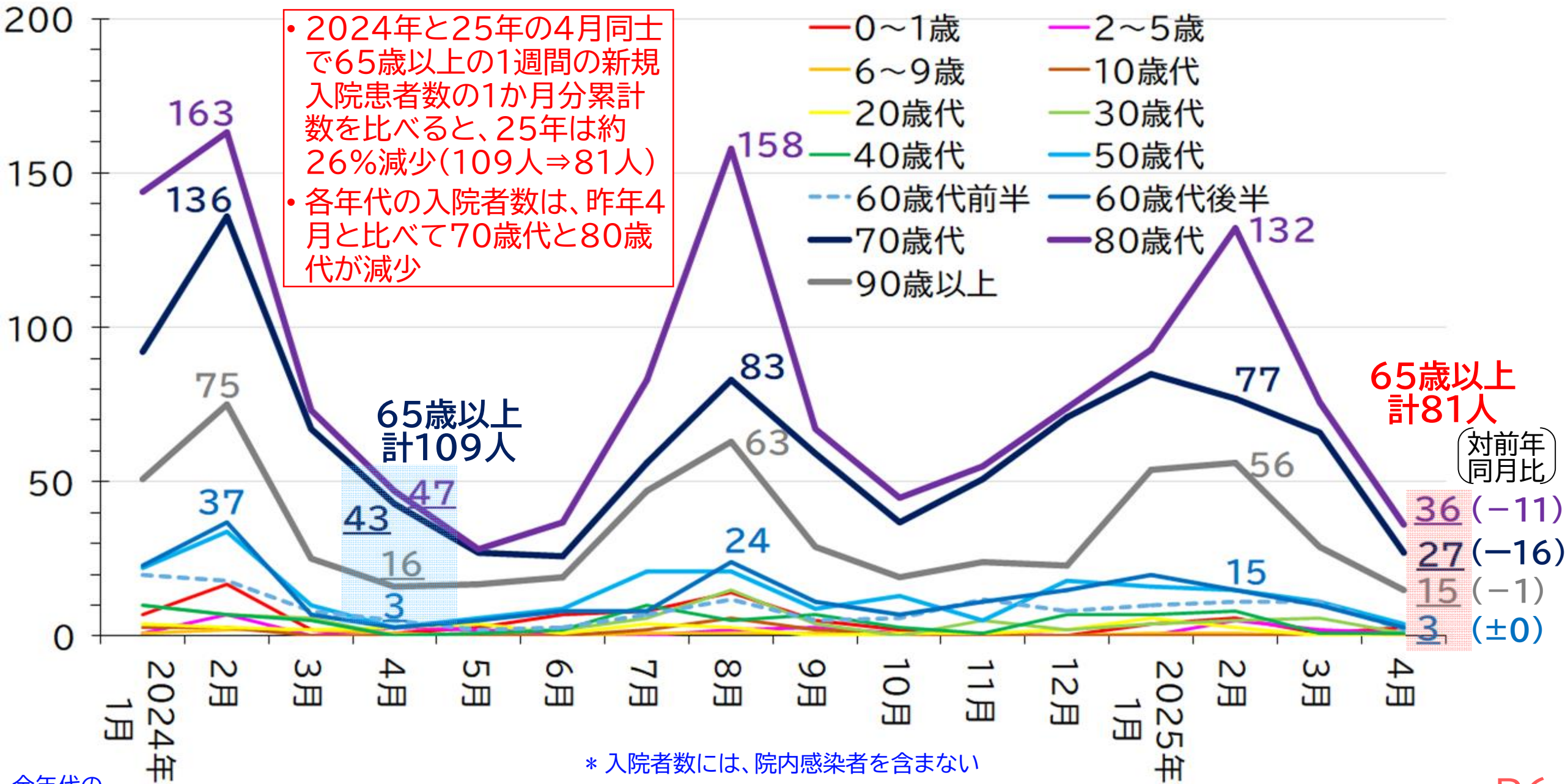
静岡県 新型コロナ 定点医療機関からの報告者数の年代別推移(2024. 1/29～2025. 5/25)



静岡県 新型コロナ入院患者数 おおまかな推計値 (2024. 4/1～2025. 5/25)

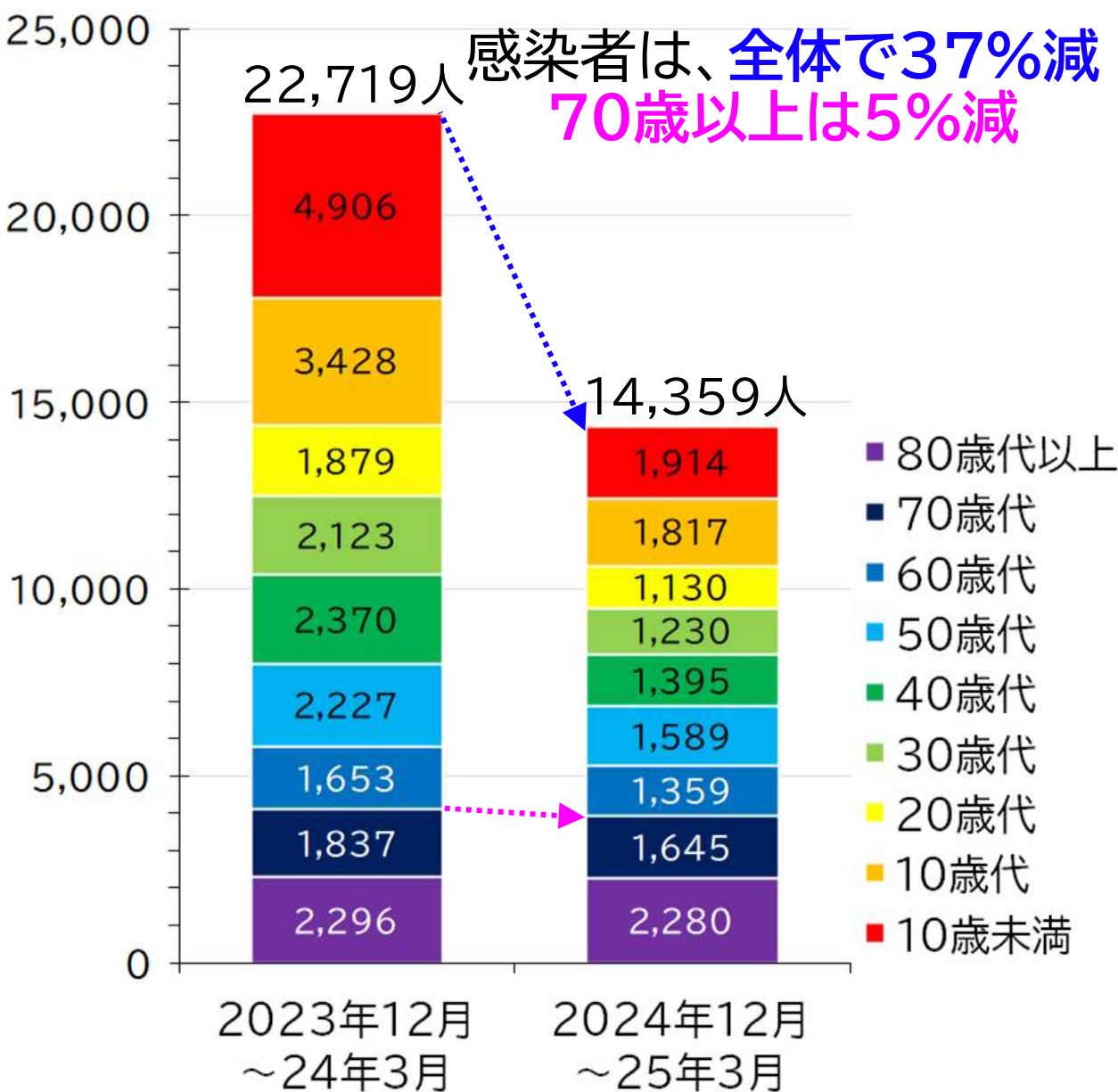


静岡県 基幹定点医療機関(10病院)のコロナ年代別新規入院患者数の推移 (2024.1月～2025.4月)

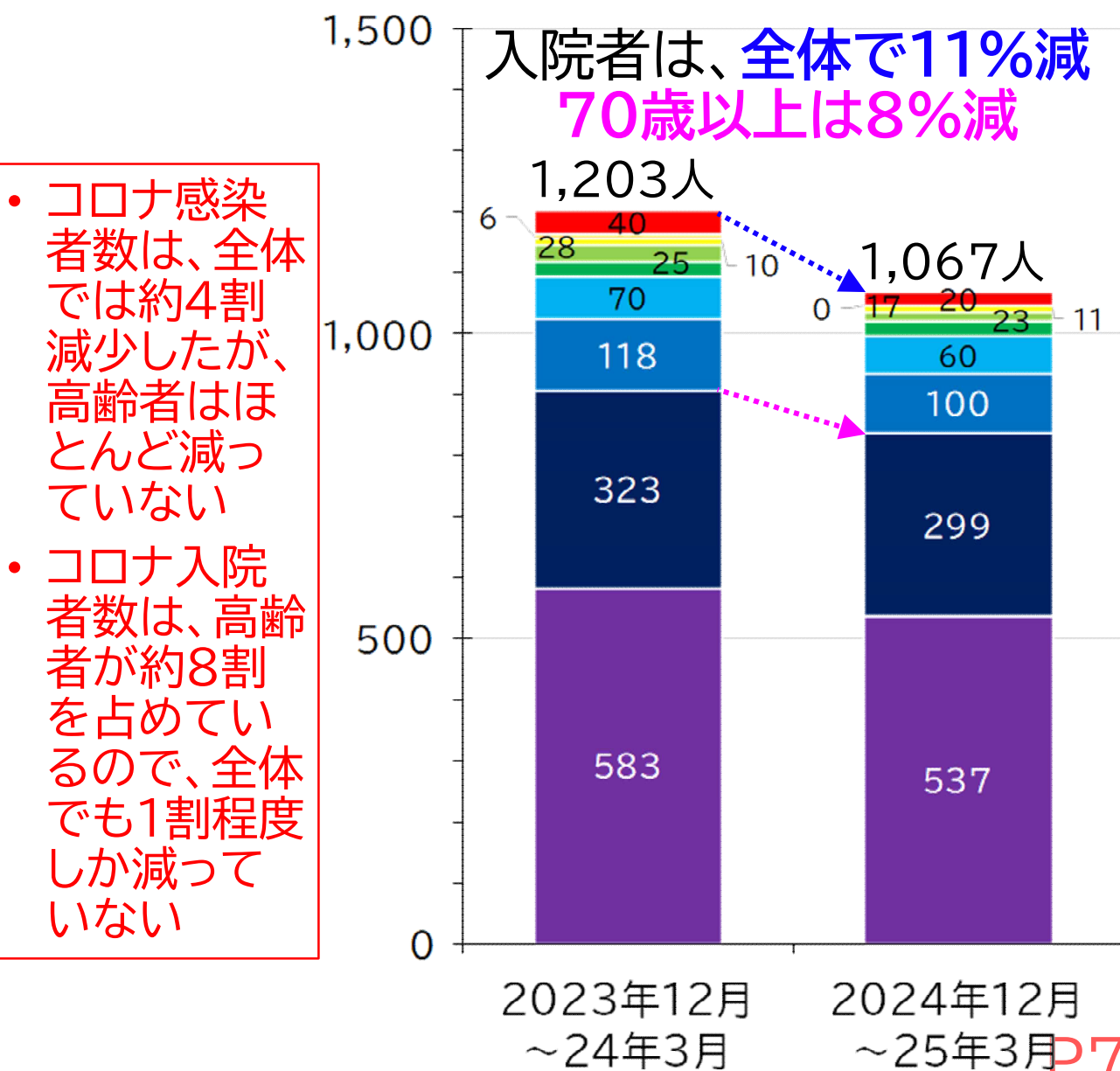


静岡県 新型コロナ 定点医療機関の2025年冬と2024年冬の感染者数・入院者数の比較

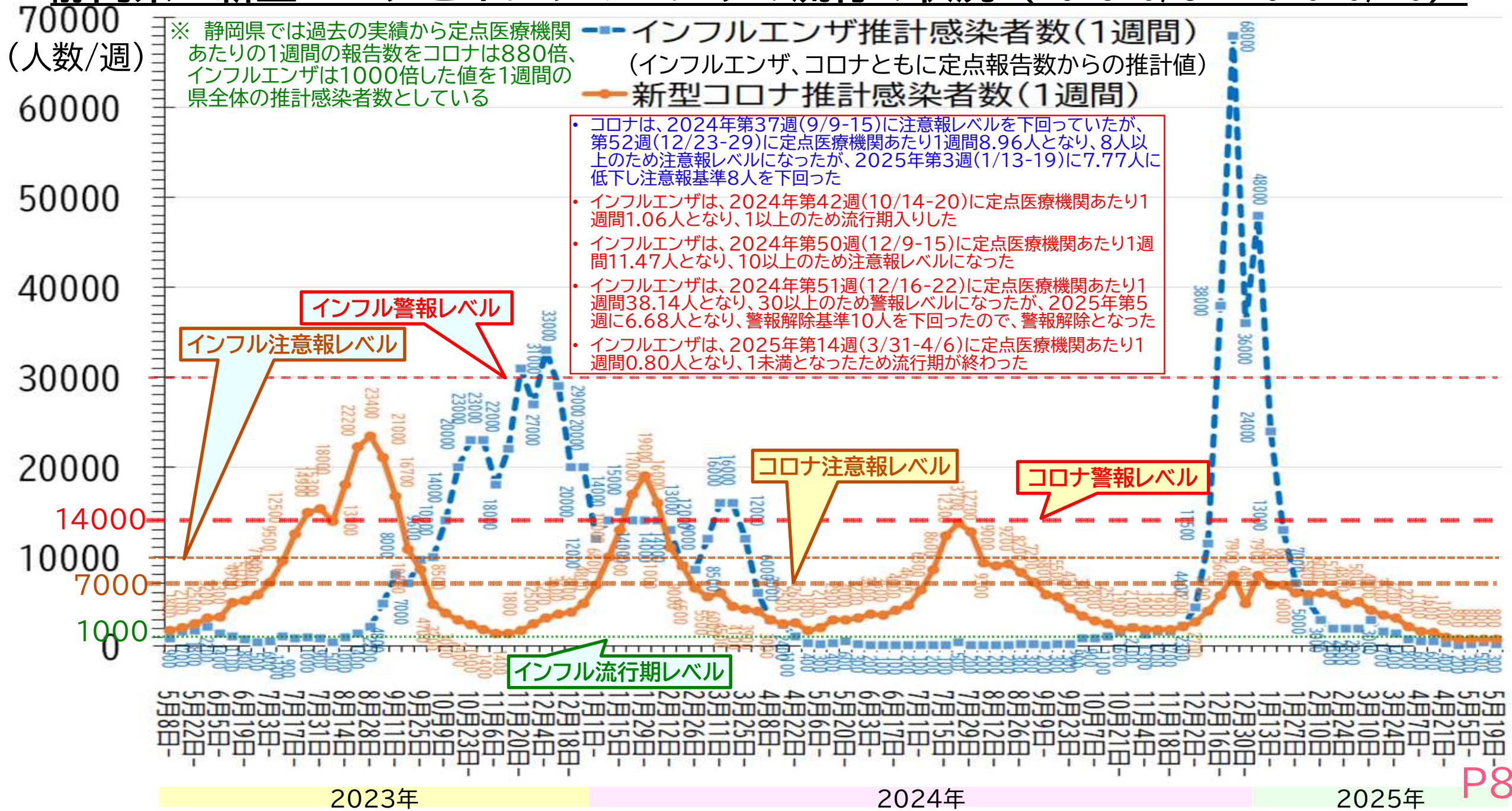
【県内139定点医療機関の感染者総数】



【県内10基幹定点医療機関の入院者総数】



静岡県 新型コロナとインフルエンザの流行の状況 (2023.5/8~2025.5/25)



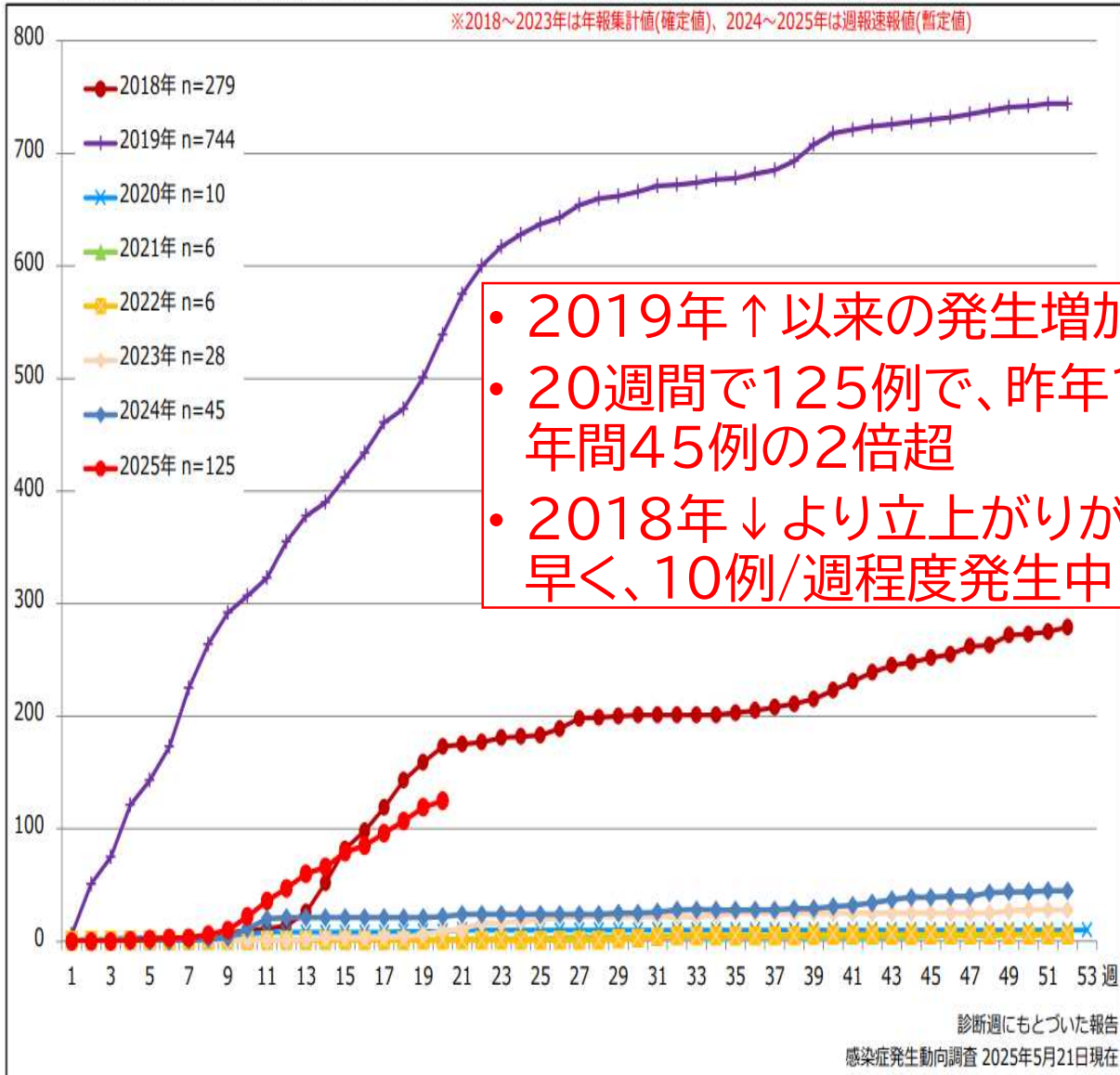
麻疹(はしか)って、どんな感染症？

- **感染力最強ウイルス**で、感染者1人から未感染者約15人に感染し(コロナの5倍)、ほぼ全員が発症
- **空気感染**するので、同じ空間にいただけで感染
- **治療薬は無し**(抗麻疹ウイルス薬なし)
- **ワクチンあり**(麻疹・風疹定期接種2回:1歳と5歳)
- 感染者**数100人に1人は死亡**(江戸時代は「命定め」)
- 症状は、高熱・咳鼻水・目の充血⇒赤いヒョウ柄発疹が顔から全身へ、**消耗が激しくほとんどが入院**
- 合併症は、**中耳炎(7%)、肺炎(6%)、脳炎(0.1%)**等

麻疹 今年の国内発生状況①(国立健康危機管理研究機構のサイトより)

1. 麻疹累積報告数の推移 2018~2025年(第1~20週)(2025年は5月18日まで)

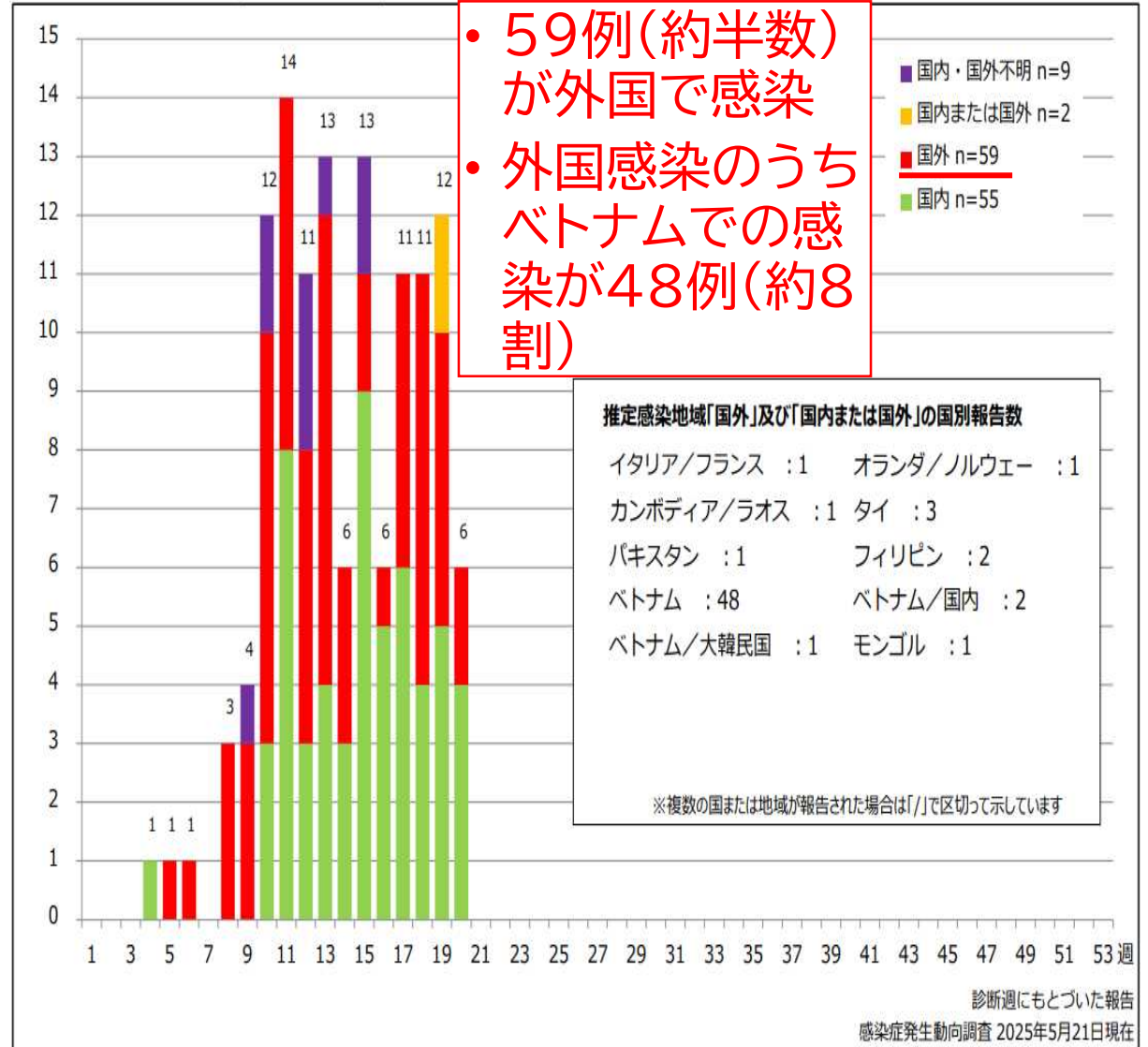
Cumulative measles cases by week, 2018-2025 (week 1-20) (based on diagnosed week as of May 21, 2025)



8. 週別推定感染地域(国内・外)別麻疹報告数 2025年 第1~20週 (n=125)(2024年12月30日~25年5月18日)

Weekly measles cases by acquired region, week 1-20, 2025 (based on diagnosed week as of May 21, 2025)

Domestic Imported Unspecified Unknown

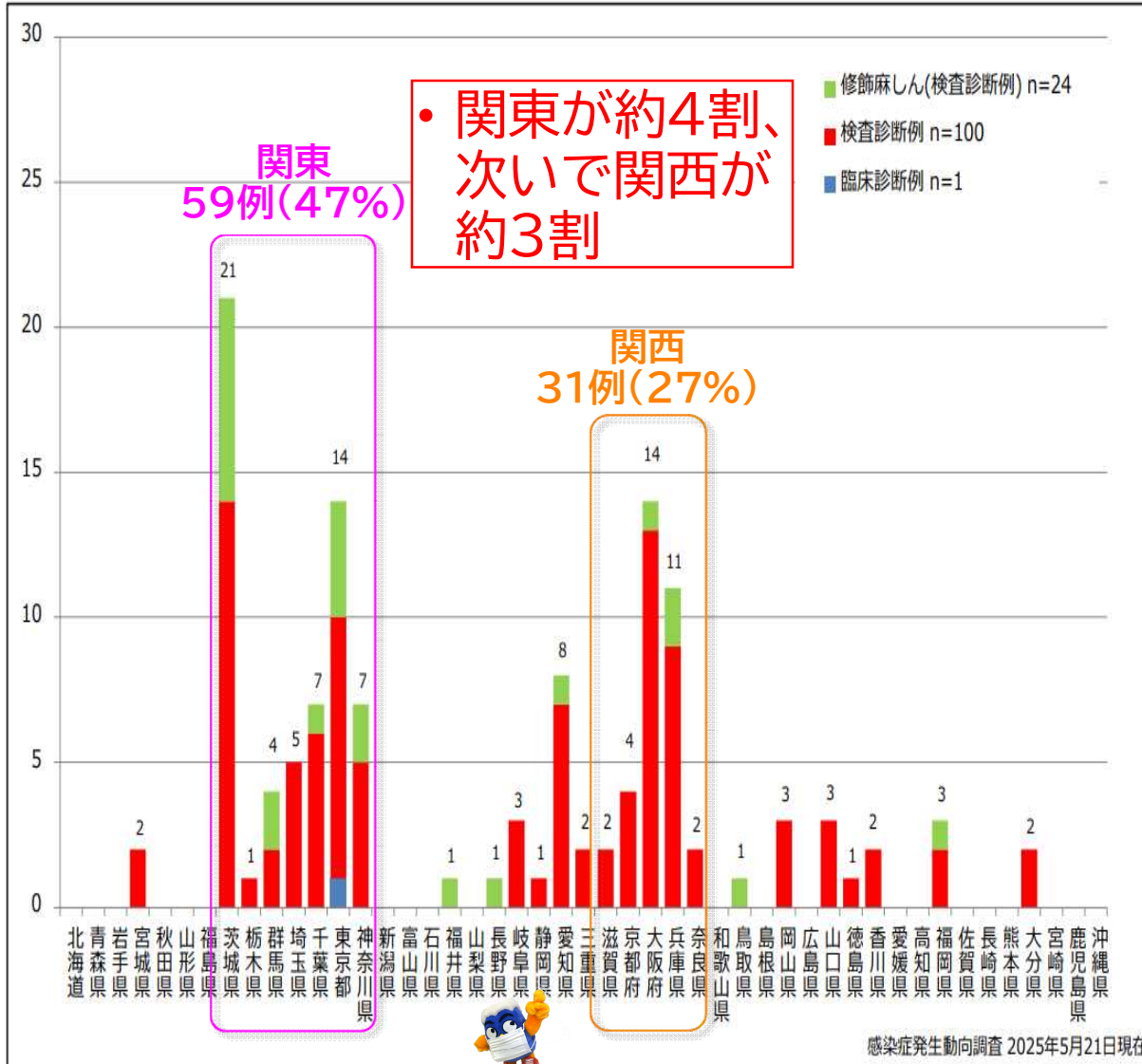


麻疹 今年の国内発生状況②(国立健康危機管理研究機構のサイトより)

4. 都道府県別麻疹累積報告数 2025年 第1~20週 (n=125) (2024年12月30日~25年5月18日)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-20, 2025 (as of May 21, 2025)

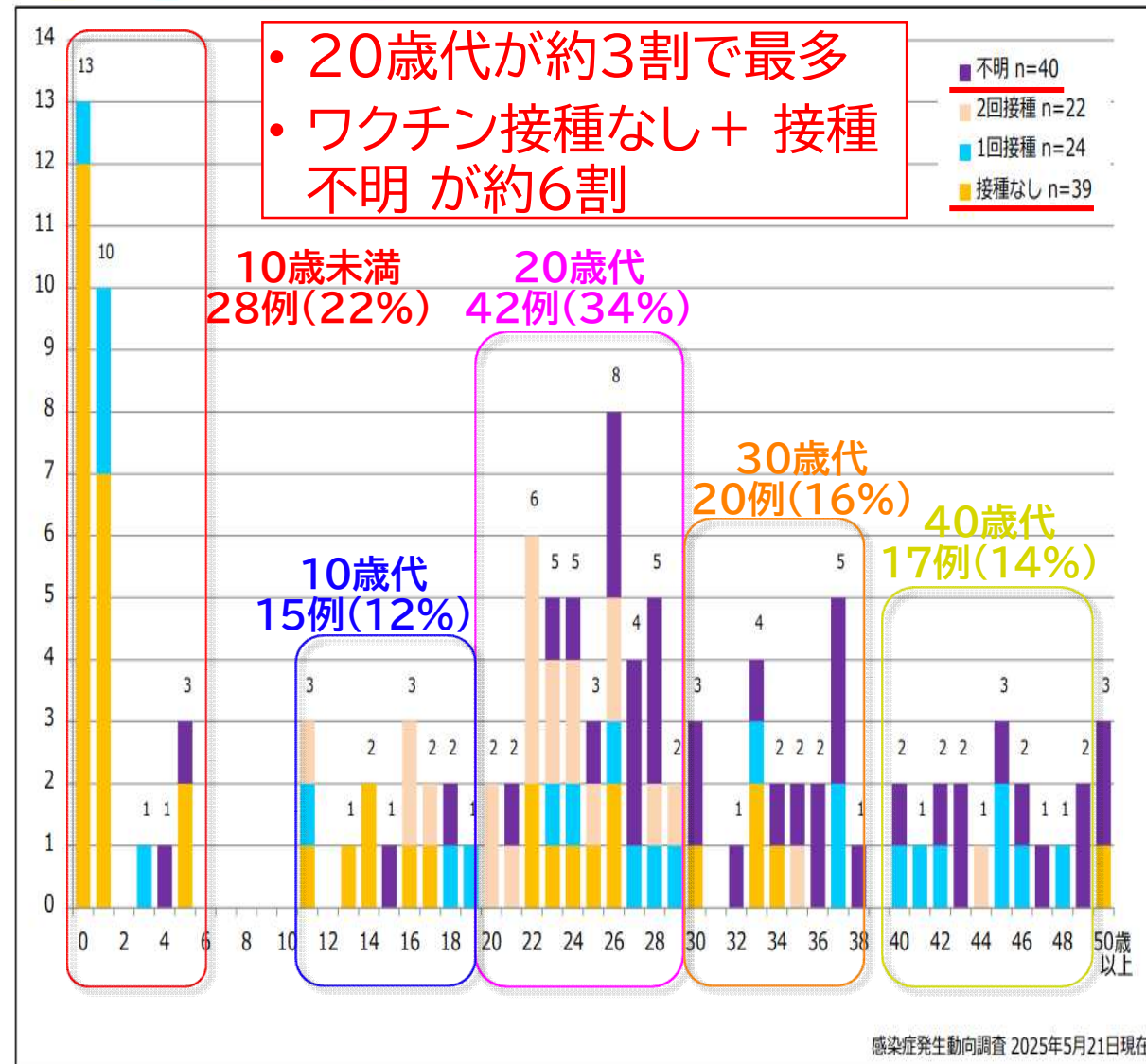
■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed ■ Modified measles, Laboratory diagnosed



6. 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2025年 第1~20週 (n=125) (2024年12月30日~25年5月18日)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-20, 2025 (as of May 21, 2025)

■ None ■ MCV1 ■ MCV2 ■ Unknown



- **1歳の誕生日がきたら、麻疹・風疹混合(MR)ワクチンをすぐにうつ！**
- 40歳代以下の方は、**母子手帳で、自分の麻疹ワクチン接種回数を確認し、0回・1回の方は接種(自費)の検討を！**

※特に、
首都圏・近畿によく行く人
海外、特にベトナムに行く人
外国から来た人とよく接する人

◆全数届出の感染症

感染症分類	感染症名	保健所名	報告数
2 類感染症	結核	富士	1
		静岡市	2
		西部	1
		浜松市	4
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	浜松市	1
4 類感染症	日本紅斑熱	中部	1
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	東部	1
		浜松市	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	静岡市	1
		中部	1
	梅毒	熱海	4
		東部	8
	百日咳	富士	1
		静岡市	4
		中部	1
		西部	6
浜松市		16	

2 保健所別の警報状況

警 報 伝染性紅斑(東部、御殿場、静岡市、中部、西部、浜松市)
咽頭結膜熱(御殿場)
注意報 なし

警報・注意報・流行期入りの目安(新型コロナウイルス感染症以外)

区分	説明
警報レベル	大きな流行が発生または継続しつつあると疑われる
注意報レベル	流行の発生前:今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高い 流行の発生後:流行が継続していると疑われる
流行入りの目安 (インフルエンザのみ)	定点医療機関あたり患者数が1を上回ると、インフルエンザが流行期に入ったと考えられる

※1週のデータのみで判断するのではなく継続的に推移を確認して判断することが重要です。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10.0
咽頭結膜熱	3.0	1.0	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—
感染性胃腸炎	20.0	12.0	—
水痘	2.0	1.0	1.0
手足口病	5.0	2.0	—
伝染性紅斑	2.0	1.0	—
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0

警報・注意報の目安(新型コロナウイルス感染症)

新型コロナウイルス感染症の警報・注意報の基準値は、静岡県が独自に設定しています。注意報レベルは、1 週間当たりの新規感染者数が人口 10 万人当たり 200 人以上となった水準を保健所ごとに設定し、感染者が急増するおそれがある状況を指します。警報レベルは、人口 10 万人当たり 400 人以上となった水準を設定し、感染者の増加が続き、医療のひっ迫のおそれがある状況を指します。国が基準値を設定するまでの間、暫定的にこの基準値に基づき注意喚起します。

新型コロナウイルス感染症(県独自)		
保健所名	注意報基準値	警報基準値
賀茂	13.0	26.0
熱海	9.0	18.0
東部	8.0	16.0
御殿場	17.0	34.0
富士	11.0	22.0
県東部地域	10.0	20.0
静岡市	6.0	12.0
中部	8.0	16.0
県中部地域	7.0	14.0
西部	10.0	20.0
浜松市	7.0	14.0
県西部地域	8.0	16.0
県全体	8.0	16.0

感染症発生動向調査における特記事項欄コメント

第 21 週 令和7年5月19日 ～ 令和7年5月25日

今週の特記事項欄コメントの報告数上位

1	新型コロナウイルス感染症	14名		
2	インフルエンザB型	10名	(インフルエンザA型	3名)
3	咽頭アデノ	5名		

保健所	医療機関名	感染症名	報告数	備考
賀茂	かわづクリニック	帯状疱疹	2	53歳女性1名、66歳女性1名
賀茂	かわづクリニック	インフルエンザB型	3	
熱海	高野医院	急性呼吸器感染症	33	
熱海	高野医院	新型コロナウイルス感染症	10	
熱海	むらかみ小児科クリニック	百日咳	1	15歳男児
東部	窪田医院	新型コロナウイルス感染症	1	
東部	医療法人社団真理会 光ヶ丘小児科	百日咳	2	
東部	医療法人社団真理会 光ヶ丘小児科	新型コロナウイルス感染症	1	
東部	医療法人社団真理会 光ヶ丘小児科	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)	1	
東部	医療法人社団真理会 光ヶ丘小児科	咽頭アデノ	1	
東部	よざ小児科医院	伝染性紅斑	1	
東部	よざ小児科医院	インフルエンザB型	1	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	百日咳	3	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	インフルエンザA型	3	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)	1	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	溶連菌感染症	14	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	パラインフルエンザ	2	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	季節性コロナ	1	
東部	医療法人社団真理会 函南平出クリニック	ヒトライノ・エンテロウイルス	1	
富士	医療法人社団富岳会 小川小児科内科医院	インフルエンザB型	1	
富士	医療法人社団富岳会 小川小児科内科医院	新型コロナウイルス感染症	2	
静岡市	静岡市立静岡病院	感染性胃腸炎	1	キャンピロバクター腸炎(13歳男児)
静岡市	こどもクリニックみなと	マイコプラズマ肺炎	1	7歳男
浜松市	クリニック・パパ	咽頭アデノ	4	
浜松市	クリニック・パパ	インフルエンザB型	3	
浜松市	クリニック・パパ	百日咳	2	
浜松市	げんきこどもクリニック	インフルエンザB型	1	
浜松市	幸田子供クリニック	インフルエンザB型	1	

第 21 週

		静岡県							全国					
		第 16 週	第 17 週	第 18 週	第 19 週	第 20 週	今週	年累計	第 18 週	第 19 週	第 20 週	今週	年累計	
1 類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2 類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	結核	7	4	5	2	5	8	164	191	153	195	208	5137	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群 (SARS)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザH5N1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザH7N9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	23	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	1	1	7	27	22	58	46	587	
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	9	
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
	E型肝炎	0	1	2	0	0	0	6	15	5	11	8	230	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4 類	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	59	
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	キャサスル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	7	6	11	10	44	
	腎臓後性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	テングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	5	3	12	5	68	
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	57	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ニバウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	日本紅斑熱	0	1	1	1	0	1	5	19	17	29	20	111	
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	8	
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レジオネラ症	0	0	3	1	0	0	26	17	29	41	40	687	
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5 類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	5	10	2	5	12	190
		ウイルス性肝炎(A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	1	4	4	3	88
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		0	0	0	0	0	0	4	8	15	10	9	600	
急性弛緩性麻痺		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎等を除く)		0	0	1	0	1	0	15	6	6	7	4	253	
クリプトスポリジウム症		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9	
クロイツフェルト・ヤコブ病		0	0	0	0	0	0	3	4	0	3	1	66	
創症型溶血性レンサ球菌感染症		1	2	0	0	1	0	11	20	14	22	25	663	
後天性免疫不全症候群		0	0	0	0	1	0	6	7	8	14	14	313	
ジアルジア症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	13	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	0	0	0	1	2	10	10	7	23	13	338	
侵襲性髄膜炎菌感染症		0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	5	38	
侵襲性肺炎球菌感染症		2	1	1	7	6	1	77	67	69	92	57	1946	
水痘(入院例に限る)		0	0	0	0	0	0	5	11	11	11	10	242	
先天性風しん症候群		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
梅毒		9	5	5	2	6	1	130	159	124	201	224	5392	
播種性クリプトコックス症		0	0	0	0	0	0	2	2	2	3	3	68	
破傷風		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	26	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	0	0	0	0	0	4	0	1	1	1	38	
百日咳		8	17	16	23	22	40	221	1746	1792	2299	2660	22351	
風しん		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7	
麻疹		0	0	0	0	0	0	1	11	11	6	5	130	
薬剤耐性アシネトバクター感染症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
新型コロナウイルス等感染症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※次週以降に届出の追加や取り下げがあった場合、この表では、前週以前の届出数に反映されません。(「今週」と「年累計」は、現時点での正しい届出数です。前週以前の届出数はその後、増減している可能性があります。)

※令和5年5月26日から「サル痘」は「エムボックス」に、「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」は「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」に名称が変わりました。

定点把握感染症集計表(届出数)

2025 第 21 週

		静岡県							全国				
		第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	今週	計	第18週	第19週	第20週	今週	計
小児科	RSウイルス感染症	63	62	37	23	16	17	218	1,160	710	726	746	3,342
	咽頭結膜熱	25	24	19	13	32	34	147	919	934	1,272	1,343	4,468
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	110	126	115	95	139	135	720	5,350	4,667	7,520	6,700	24,237
	感染性胃腸炎	545	507	400	340	426	431	2,649	15,672	13,636	18,117	16,422	63,847
	水痘	12	13	11	15	18	25	94	939	1,190	1,275	1,397	4,801
	手足口病	3	1	4	2	7	15	32	220	189	305	421	1,135
	伝染性紅斑	165	184	164	175	291	273	1,252	2,712	2,680	4,834	4,656	14,882
	突発性発しん	19	20	35	23	40	29	166	752	706	868	934	3,260
	ヘルパンギーナ	4	2		1	1	2	10	44	62	129	197	432
	流行性耳下腺炎	1	9	11	7	3	4	35	171	140	196	215	722
小・内	インフルエンザ	80	48	33	37	69	39	306	3,039	2,580	2,910	2,035	10,564
	新型コロナウイルス感染症	260	161	134	133	125	129	942	4,227	3,604	3,694	3,229	14,754
眼科	急性出血性結膜炎				1			1	27	27	41	36	131
	流行性角結膜炎	9	7	9	11	3	11	50	537	523	632	550	2,242
基幹	細菌性髄膜炎			1				1	11	8	11	8	38
	無菌性髄膜炎				1		1	2	17	9	13	14	53
	マイコプラズマ肺炎	4	2	2	3	2	4	17	152	158	157	181	648
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								1	2	4	3	10
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)								121	106	110	90	427

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病は除く)、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

※小児科定点と内科定点はインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症定点を兼ねています。
※新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類感染症(定点把握対象)に追加されました。

定点把握感染症集計表(定点当り患者数)

2025 第 21 週

		静岡県						全国			
		第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	今週	第18週	第19週	第20週	今週
小児科	RSウイルス感染症	0.71	0.70	0.42	0.26	0.18	0.19	0.50	0.30	0.31	0.32
	咽頭結膜熱	0.28	0.27	0.21	0.15	0.36	0.38	0.39	0.40	0.54	0.57
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.24	1.42	1.29	1.07	1.56	1.52	2.29	1.98	3.19	2.84
	感染性胃腸炎	6.12	5.70	4.49	3.82	4.79	4.84	6.71	5.78	7.68	6.96
	水痘	0.13	0.15	0.12	0.17	0.20	0.28	0.40	0.50	0.54	0.59
	手足口病	0.03	0.01	0.04	0.02	0.08	0.17	0.09	0.08	0.13	0.18
	伝染性紅斑	1.85	2.07	1.84	1.97	3.27	3.07	1.16	1.14	2.05	1.97
	突発性発しん	0.21	0.22	0.39	0.26	0.45	0.33	0.32	0.30	0.37	0.40
	ヘルパンギーナ	0.04	0.02		0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.05	0.08
	流行性耳下腺炎	0.01	0.10	0.12	0.08	0.03	0.04	0.07	0.06	0.08	0.09
小・内	インフルエンザ	0.58	0.35	0.24	0.27	0.50	0.28	0.79	0.67	0.75	0.53
	新型コロナウイルス感染症	1.87	1.16	0.96	0.96	0.90	0.93	1.10	0.94	0.96	0.84
眼科	急性出血性結膜炎				0.05			0.04	0.04	0.06	0.05
	流行性角結膜炎	0.41	0.32	0.41	0.50	0.14	0.50	0.79	0.75	0.90	0.79
基幹	細菌性髄膜炎			0.10				0.02	0.02	0.02	0.02
	無菌性髄膜炎				0.10		0.10	0.04	0.02	0.03	0.03
	マイコプラズマ肺炎	0.40	0.20	0.20	0.30	0.20	0.40	0.32	0.33	0.33	0.38
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							0.00	0.00	0.01	0.01
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)							0.25	0.22	0.23	0.19

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病は除く)、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

※定点当り患者数とは1週間の1医療機関当りの平均患者数です。(報告数÷定点医療機関数=定点当り患者数)

※小児科定点と内科定点はインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症定点を兼ねています。

※新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類感染症(定点把握対象)に追加されました。

第 21 週 定点把握感染症 保健所別状況

保健所名	RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	17	0.19	34	0.38	135	1.52	431	4.84	25	0.28
賀茂	2	1.00	1	0.50			4	2.00		
熱海	1	0.25			1	0.25	12	3.00	1	0.25
東部	3	0.23	1	0.08	35	2.69	58	4.46	3	0.23
御殿場	1	0.25	9	2.25	10	2.50	22	5.50	3	0.75
富士	2	0.22	1	0.11	17	1.89	25	2.78	1	0.11
静岡市	2	0.13	7	0.44	32	2.00	51	3.19	2	0.13
中部	3	0.27	1	0.09	10	0.91	62	5.64	8	0.73
西部			7	0.58	15	1.25	95	7.92	3	0.25
浜松市	3	0.17	7	0.39	15	0.83	102	5.67	4	0.22

保健所名	手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	週計	定点当り	罹患数	定点当り
総数	15	0.17	273	3.07	29	0.33	2	0.02	4	0.04
賀茂					1	0.50				
熱海			4	1.00	1	0.25				
東部	1	0.08	44	3.38	6	0.46			2	0.15
御殿場	1	0.25	29	7.25			1	0.25	1	0.25
富士	3	0.33	12	1.33	4	0.44	1	0.11		
静岡市			54	3.38	2	0.13				
中部	2	0.18	24	2.18	3	0.27				
西部	7	0.58	25	2.08	5	0.42				
浜松市	1	0.06	81	4.50	7	0.39			1	0.06

保健所名	インフルエンザ		新型コロナウイルス感染症				指定届出機関 (定点)数	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	注意報基準値	警報基準値	小児科	内科
総数	39	0.28	129	0.93	8.0	16.0	89	50
賀茂	3	1.00	1	0.33	13.0	26.0	2	1
熱海			15	2.50	9.0	18.0	4	2
東部	5	0.25	3	0.15	8.0	16.0	13	7
御殿場	1	0.17	30	5.00	17.0	34.0	4	2
富士	4	0.27	19	1.27	11.0	22.0	9	6
静岡市	3	0.12	9	0.36	6.0	12.0	16	9
中部	2	0.12	15	0.88	8.0	16.0	11	6
西部	9	0.47	15	0.79	10.0	20.0	12	7
浜松市	12	0.43	22	0.79	7.0	14.0	18	10

*新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日(第19週)から五類(定点把握対象)に追加されました。

第 21 週 定点把握感染症 保健所別状況

保健所名	急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	0		11	0.50	0		1	0.10	4	0.40
賀茂										
熱海									1	1.00
東部										
御殿場										
富士							1	1.00	1	1.00
静岡市									1	0.50
中部										
西部			1	0.25						
浜松市			10	3.33					1	0.50

保健所名	クラミジア肺炎(オウム病は除く)		感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	0		0	
賀茂				
熱海				
東部				
御殿場				
富士				
静岡市				
中部				
西部				
浜松市				

指定届出機関 (定点)数	
眼科	基幹
22	10
	1
	1
4	1
3	1
5	2
3	1
4	1
3	2

*賀茂・熱海・御殿場の各保健所管内には眼科定点はありません。

*御殿場保健所管内には基幹定点はありません。

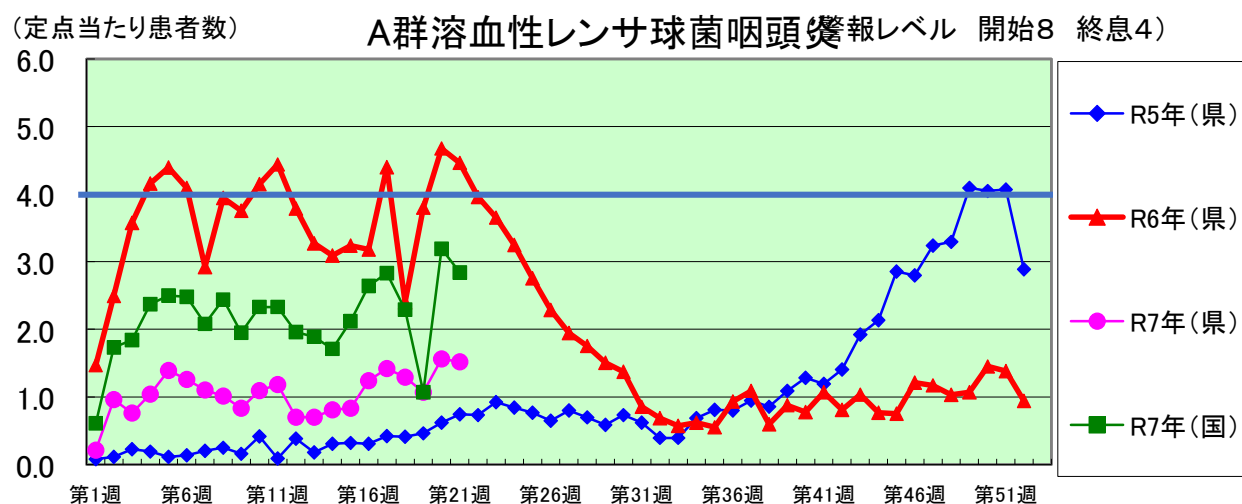
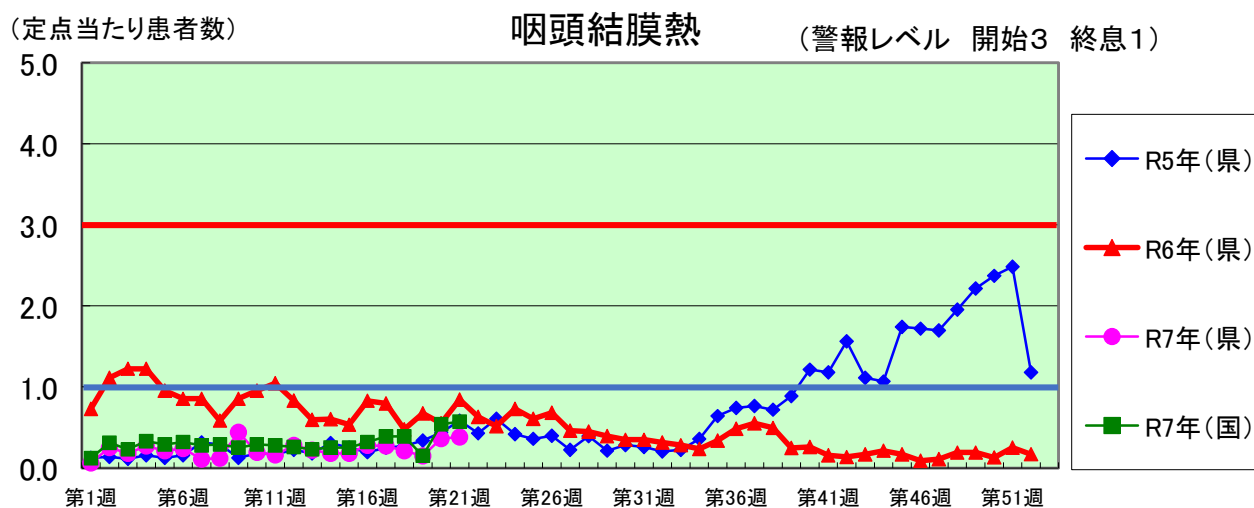
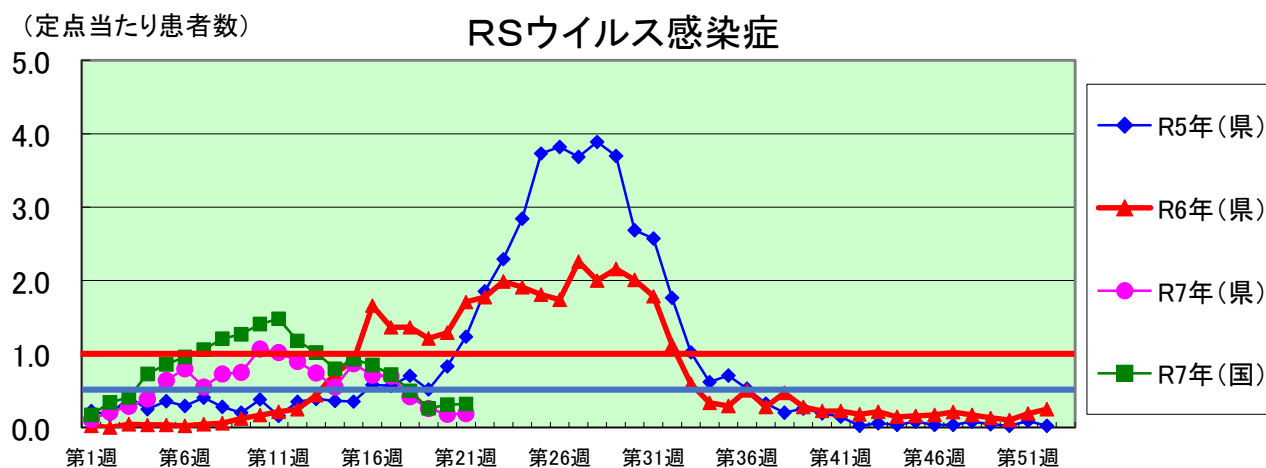
2025 第 21 週

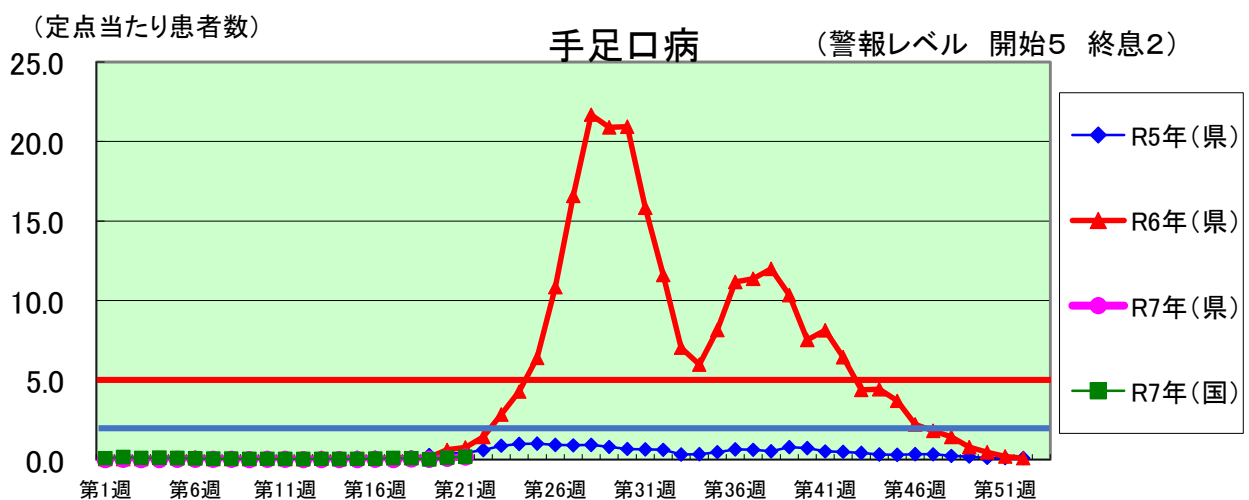
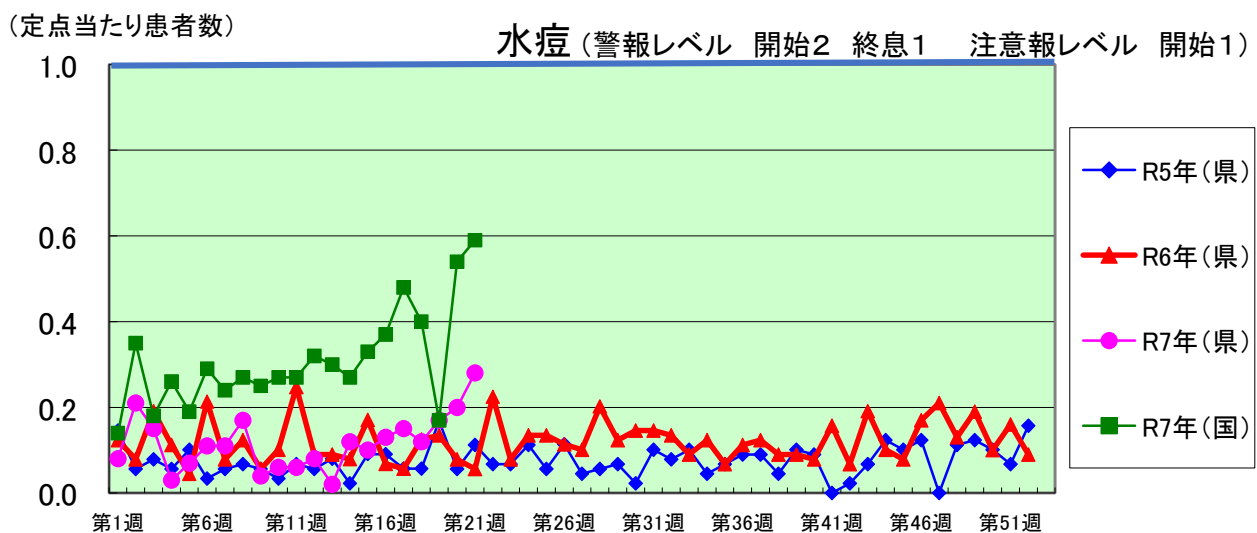
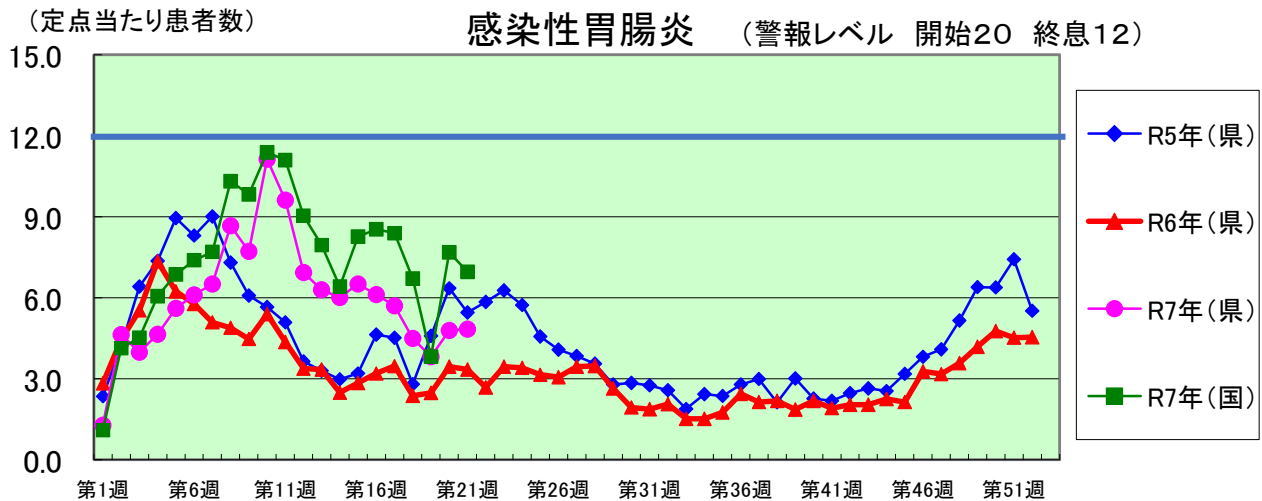
[illegible]

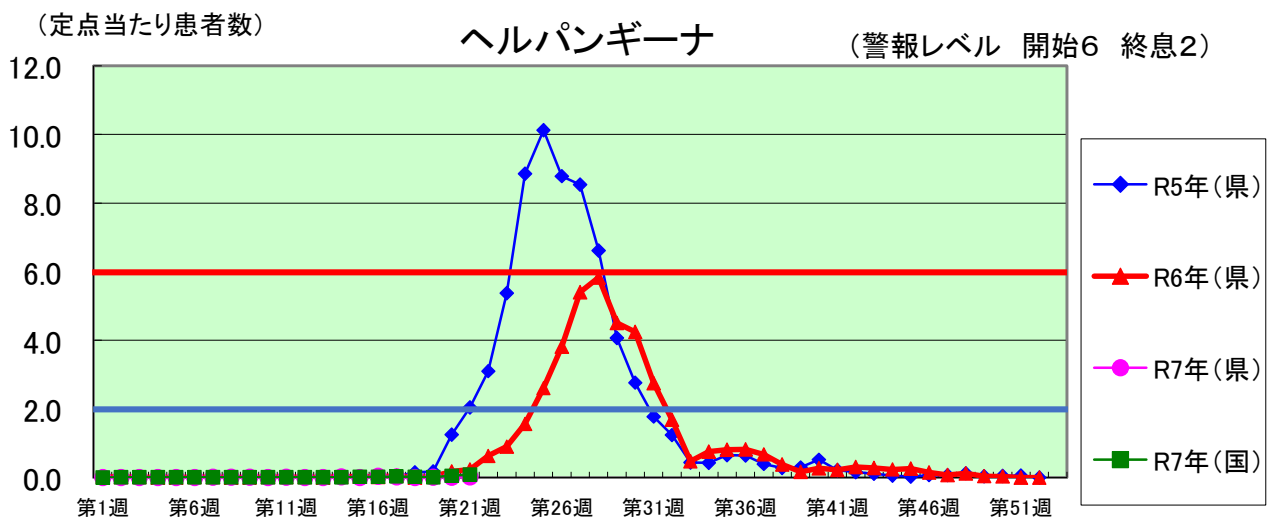
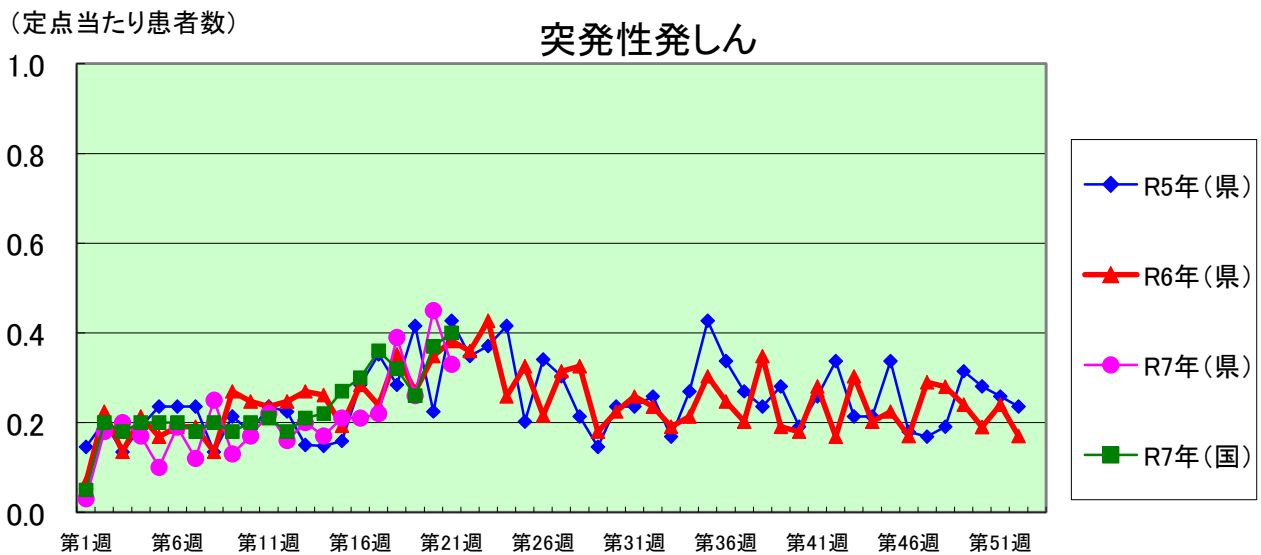
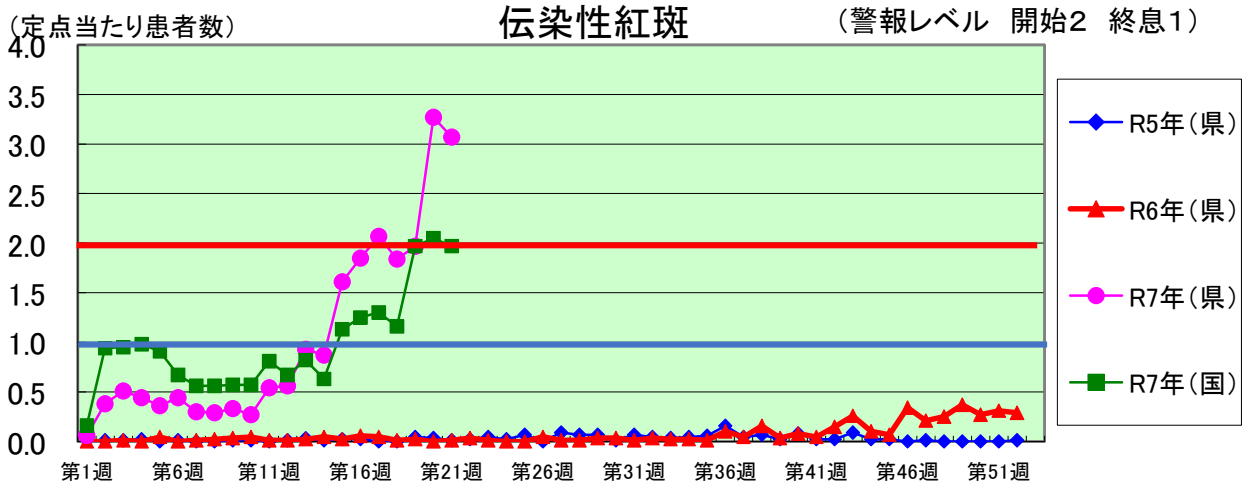
定点把握感染症年齢階級別集計表(定点当り)

2025 第 21 週

年齢階級区分(小児科定点把握感染症分)	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上											計
RSウイルス感染症	0.03	0.02	0.07	0.03	0.01	0.01	0.01																		0.19
咽頭結膜熱	0.01	0.01	0.16	0.08	0.03		0.02	0.01	0.01		0.01	0.01		0.02											0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.06	0.10	0.18	0.18	0.25	0.19	0.20	0.13	0.07	0.10	0.02	0.03											1.52
感染性胃腸炎	0.03	0.30	0.73	0.45	0.38	0.44	0.33	0.43	0.29	0.19	0.19	0.74	0.13	0.20											4.84
水痘				0.01	0.02	0.01	0.03	0.03	0.07	0.03	0.01	0.06													0.28
手足口病	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01			0.01		0.01	0.01												0.17
伝染性紅斑			0.15	0.15	0.35	0.48	0.57	0.24	0.43	0.34	0.17	0.17		0.03											3.07
突発性発しん	0.01	0.09	0.15	0.06	0.02																				0.33
ヘルパンギーナ			0.01									0.01													0.02
流行性耳下腺炎					0.01		0.01		0.01		0.01														0.04
年齢階級区分(小児科・内科定点把握感染症分)	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上			計		
インフルエンザ		0.01	0.01		0.01		0.01	0.01	0.03				0.15	0.04		0.01	0.01	0.01						0.28	
新型コロナウイルス感染症	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.08	0.06	0.06	0.11	0.08	0.10	0.11	0.04	0.15				0.93	
年齢階級区分(療科定点把握感染症分)	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上			計			
急性出血性結膜炎																					0		0.00		
流行性角結膜炎				0.05				0.05	0.05			0.10			0.10	0.10	0.05		0.05		0		0.50		
年齢階級区分(基幹定点把握分)	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上						計			
細菌性髄膜炎																						0.00			
無菌性髄膜炎															0.10							0.10			
マイコプラズマ肺炎			0.20		0.10			0.10														0.40			
クラミジア肺炎(オウム病は除く)																						0.00			
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)																						0.00			



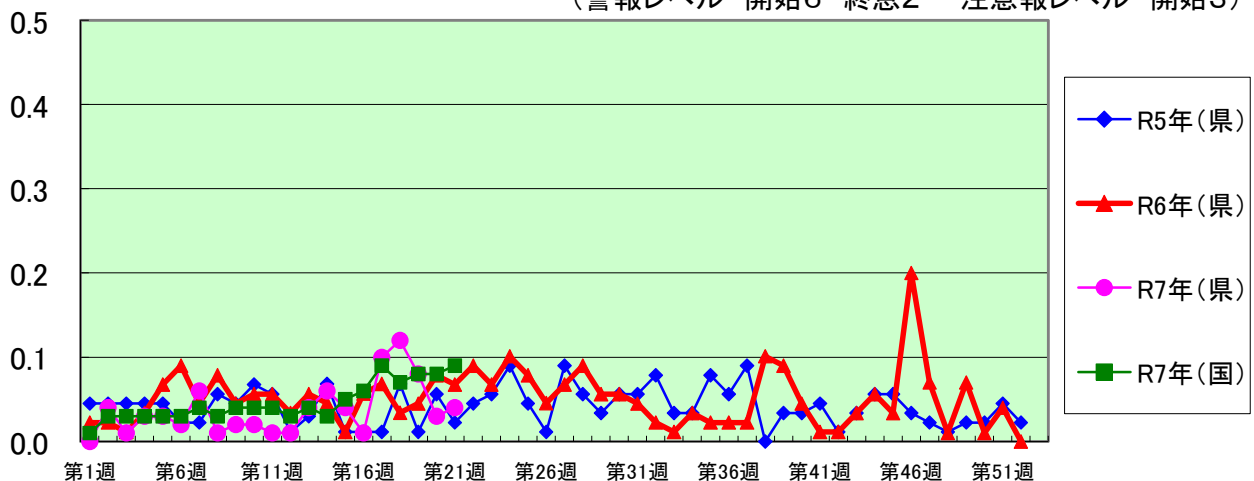




(定点当たり患者数)

流行性耳下腺炎

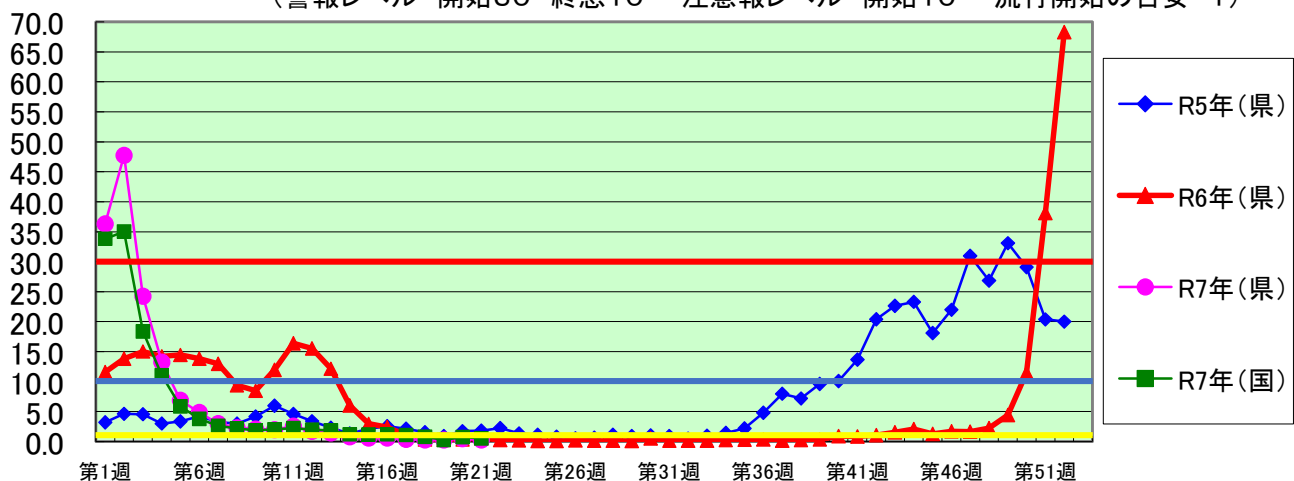
(警報レベル 開始6 終息2 注意報レベル 開始3)



(定点当たり患者数)

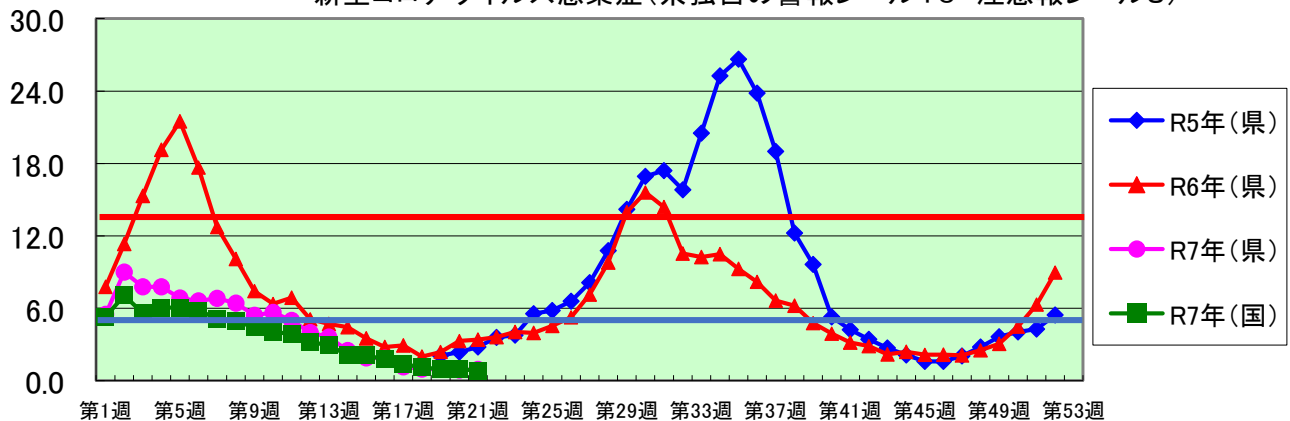
インフルエンザ

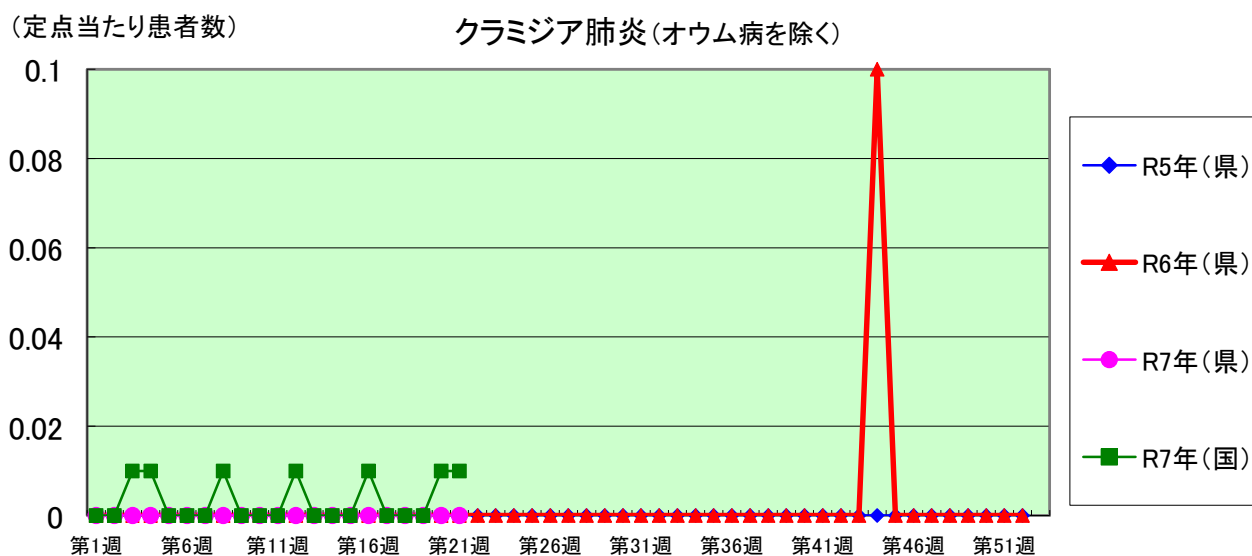
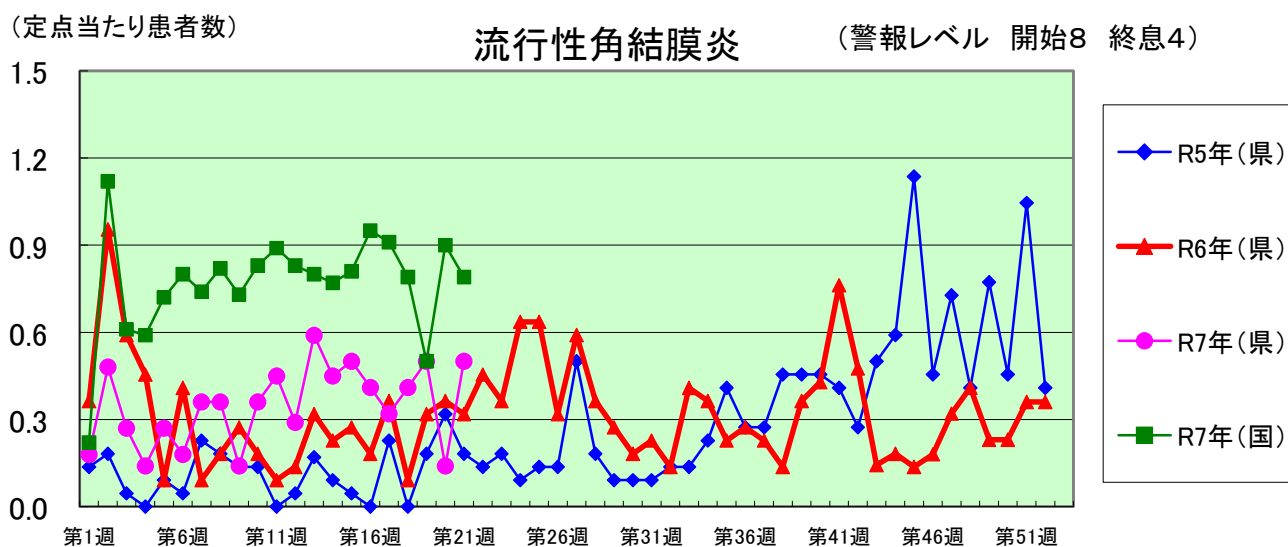
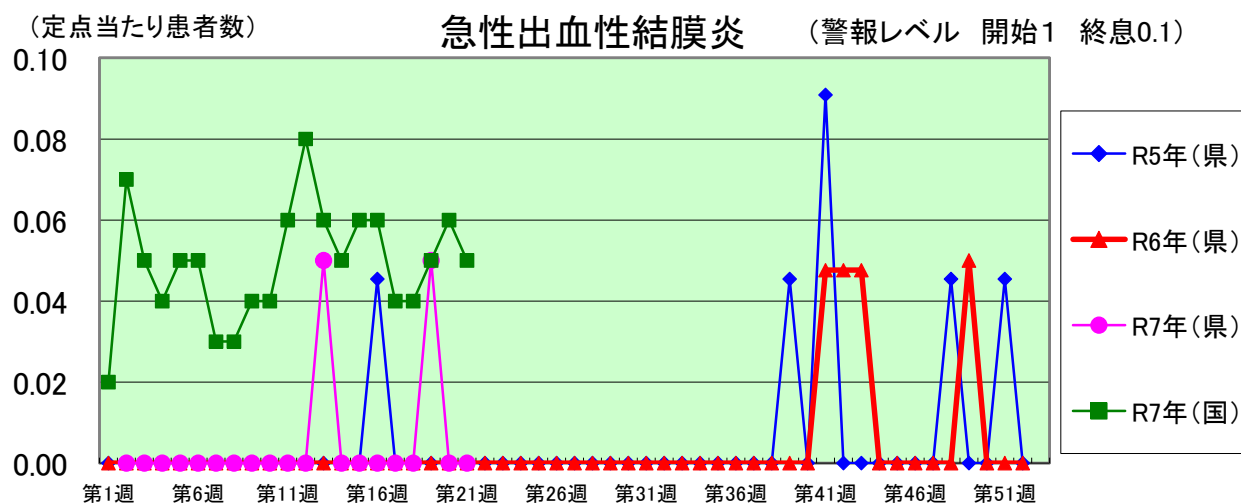
(警報レベル 開始30 終息10 注意報レベル 開始10 流行開始の目安 1)

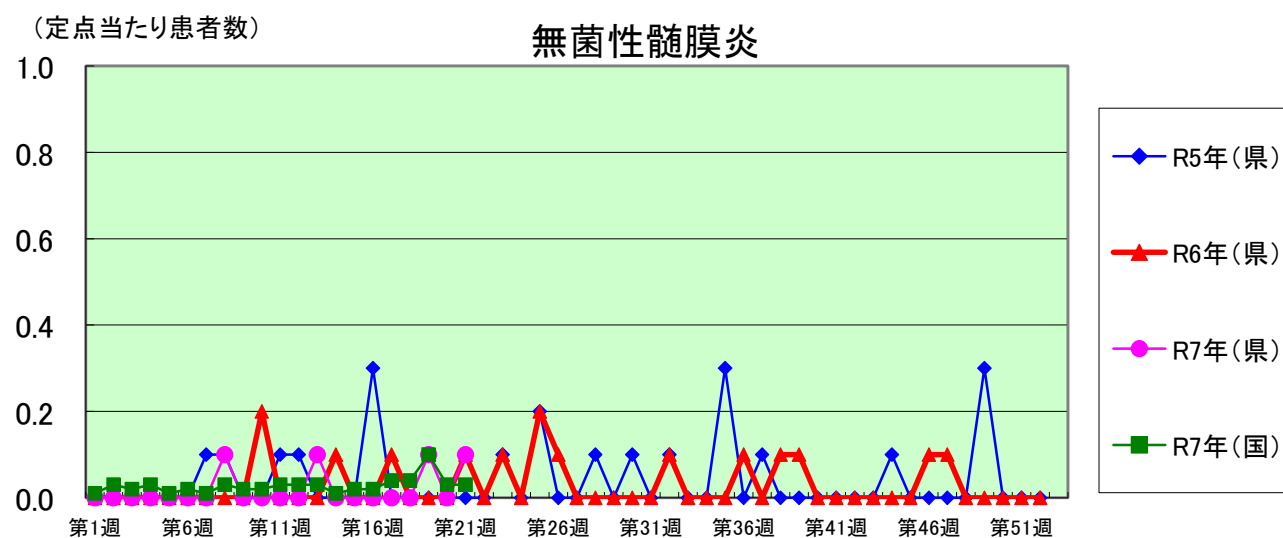
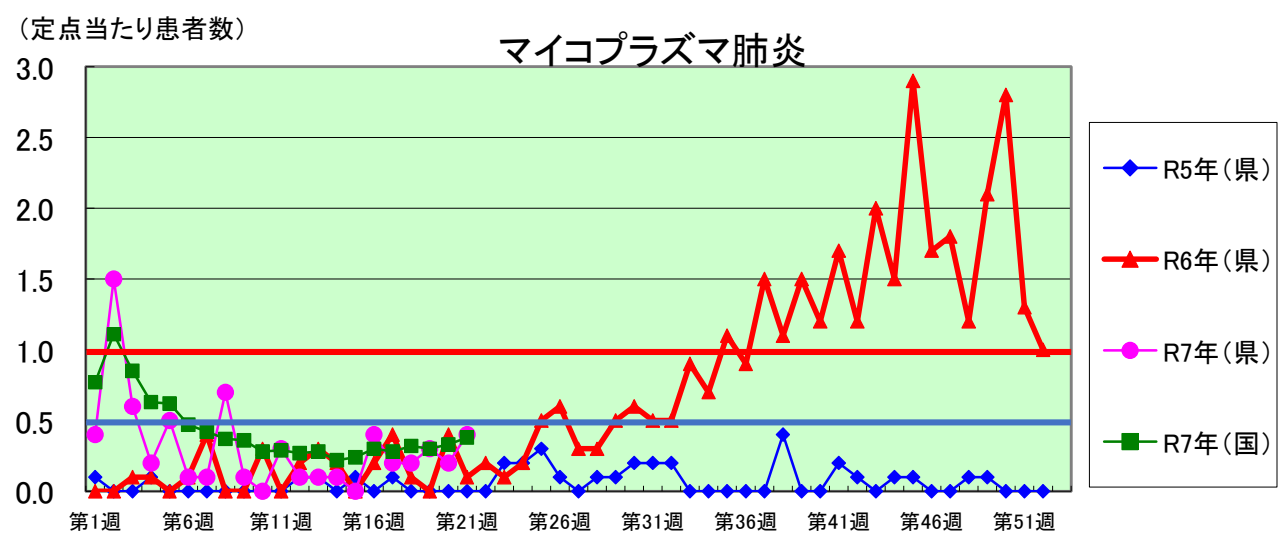
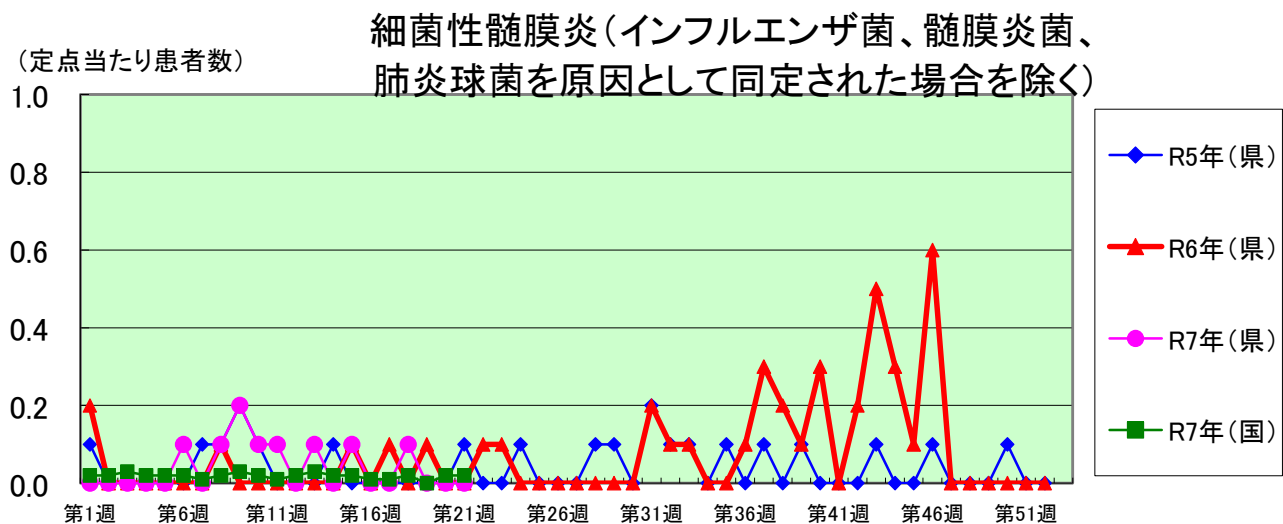


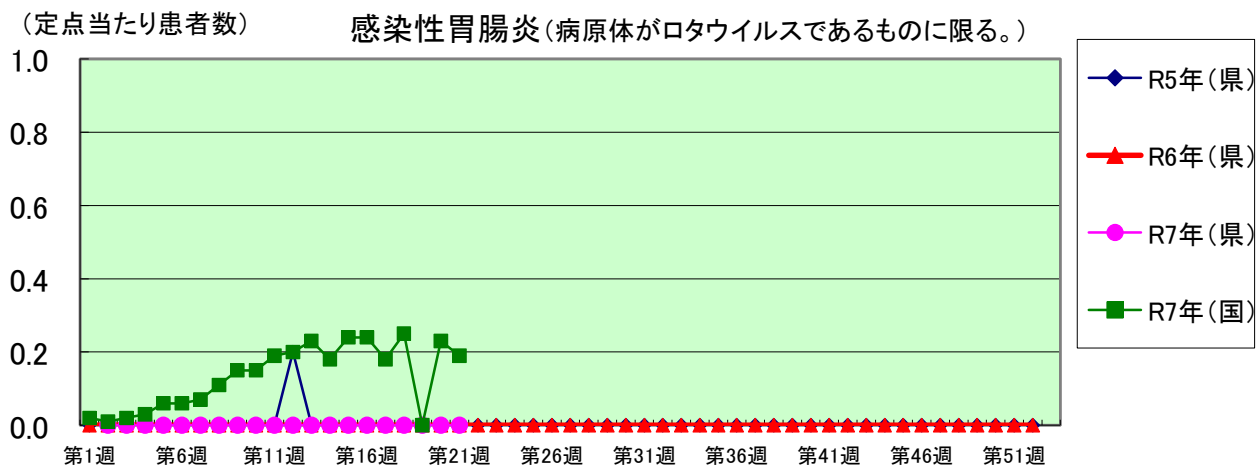
(定点当たり患者数)

新型コロナウイルス感染症(県独自の警報レベル16 注意報レベル8)









定点種別	県内定点数	届出対象感染症
小児科	89	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
内科	50	インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
眼科	22	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹	10	クラミジア肺炎(オウム病を除く)、細菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

定点把握感染症(月報)集計表(届出数)

2025年 4 月

	静岡県							全国				
	11月	12月	1月	2月	3月	今月	計	1月	2月	3月	今月	計
性器クラミジア感染症	39	39	46	32	27	30	213	2,217	2,018	2,182	2,307	8,724
性器ヘルペスウイルス感染症	15	13	16	19	15	13	91	798	741	871	873	3,283
尖圭コンジローマ	10	12	9	8	8	12	59	492	441	505	524	1,962
淋菌感染症	7	6	5	5	4	11	38	701	531	574	612	2,418
性器クラミジア感染症(男)	11	17	14	10	9	11	72	1,115	1,001	1,051	1,178	4,345
性器クラミジア感染症(女)	28	22	32	22	18	19	141	1,102	1,017	1,131	1,129	4,379
性器ヘルペスウイルス感染症(男)	6	5	8	3	2	5	29	296	271	314	298	1,179
性器ヘルペスウイルス感染症(女)	9	8	8	16	13	8	62	502	470	557	575	2,104
尖圭コンジローマ(男)	4	4	5	5	3	6	27	324	285	334	355	1,298
尖圭コンジローマ(女)	6	8	4	3	5	6	32	168	156	171	169	664
淋菌感染症(男)	5	5	5	3	3	9	30	535	396	416	468	1,815
淋菌感染症(女)	1	1	-	2	1	2	7	166	135	158	144	603
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15	28	32	36	25	30	166	1,495	1,256	1,339	1,313	5,403
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-	-	1	-	1	116	78	72	41	307
薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-	-	-	-		6	5	7	10	28

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

定点把握感染症(月報)集計表(定点当り)

2025年 4 月

	静岡県						全国			
	11月	12月	1月	2月	3月	今月	1月	2月	3月	今月
性器クラミジア感染症	1.30	1.30	1.53	1.07	0.90	1.00	2.28	2.07	2.25	2.39
性器ヘルペスウイルス感染症	0.50	0.43	0.53	0.63	0.50	0.43	0.82	0.76	0.90	0.90
尖圭コンジローマ	0.33	0.40	0.30	0.27	0.27	0.40	0.51	0.45	0.52	0.54
淋菌感染症	0.23	0.20	0.17	0.17	0.13	0.37	0.72	0.54	0.59	0.63
性器クラミジア感染症(男)	0.37	0.57	0.47	0.33	0.30	0.37	1.15	1.02	1.08	1.22
性器クラミジア感染症(女)	0.93	0.73	1.07	0.73	0.60	0.63	1.13	1.04	1.17	1.17
性器ヘルペスウイルス感染症(男)	0.20	0.17	0.27	0.10	0.07	0.17	0.30	0.28	0.32	0.31
性器ヘルペスウイルス感染症(女)	0.30	0.27	0.27	0.53	0.43	0.27	0.52	0.48	0.57	0.59
尖圭コンジローマ(男)	0.13	0.13	0.17	0.17	0.10	0.20	0.33	0.29	0.34	0.37
尖圭コンジローマ(女)	0.20	0.27	0.13	0.10	0.17	0.20	0.17	0.16	0.18	0.17
淋菌感染症(男)	0.17	0.17	0.17	0.10	0.10	0.30	0.55	0.41	0.43	0.48
淋菌感染症(女)	0.07	0.27	0.13	0.10	0.17	0.20	0.17	0.14	0.16	0.15
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.50	2.80	3.20	3.60	2.50	3.00	3.13	2.62	2.80	2.75
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-	-	0.10	-	0.24	0.16	0.15	0.09
薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-	-	-	-	0.01	0.01	0.01	0.02

定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

2025年 4 月

保健所名	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	30	1.00	13	0.43	12	0.40	11	0.37
賀茂	...	...	...	...	...	...	...	...
熱海	1	1.00	-	-	-	-	-	-
東部	2	0.40	-	-	-	-	-	-
御殿場	1	1.00	2	2.00	-	-	1	1.00
富士	6	2.00	1	0.33	2	0.67	2	0.67
静岡市	7	1.17	7	1.17	3	0.50	3	0.50
中部	4	1.00	2	0.50	-	-	2	0.50
西部	7	1.40	-	-	-	-	2	0.40
浜松市	2	0.40	1	0.20	7	1.40	1	0.20

保健所名	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り	罹患数	定点当り
総数	30	3.00	-	-	-	-
賀茂	1	1.00	-	-	-	-
熱海	-	-	-	-	-	-
東部	3	3.00	-	-	-	-
御殿場	...	...	...	...	...	...
富士	-	-	-	-	-	-
静岡市	18	9.00	-	-	-	-
中部	1	1.00	-	-	-	-
西部	2	2.00	-	-	-	-
浜松市	5	2.50	-	-	-	-

保健所名	定点(指定届出機関)数	
	性感染症	基幹
総数	30	10
賀茂		1
熱海	1	1
東部	5	1
御殿場	1	
富士	3	1
静岡市	6	2
中部	4	1
西部	5	1
浜松市	5	2

* 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成26年9月19日から全数把握の対象となりました。

4 月

4 月

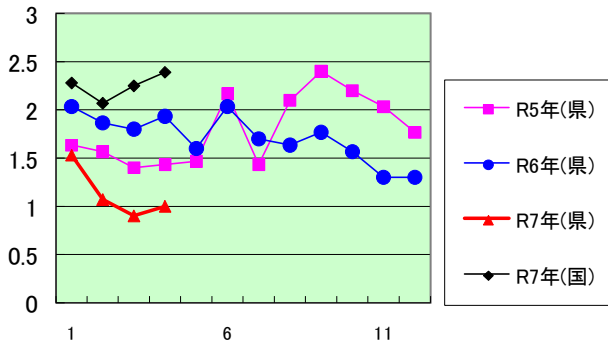
定点把握感染症(月報)年齢階級別集計表(定点当り)

4 月

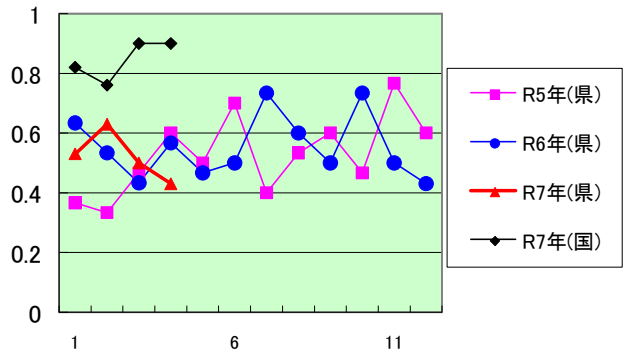
[illegible]

定点把握感染症(月報)推移グラフ

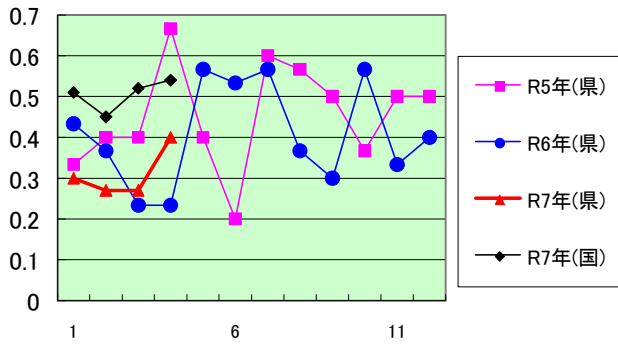
性器クラミジア感染症



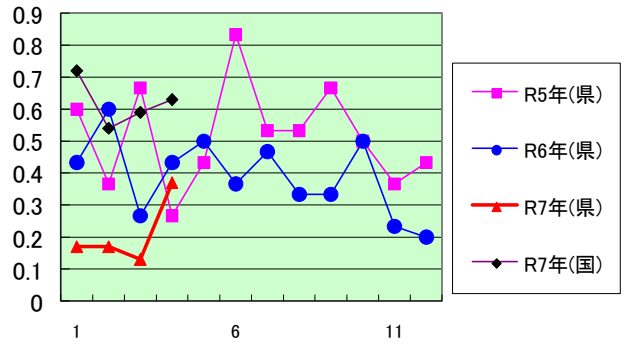
性器ヘルペスウイルス感染症



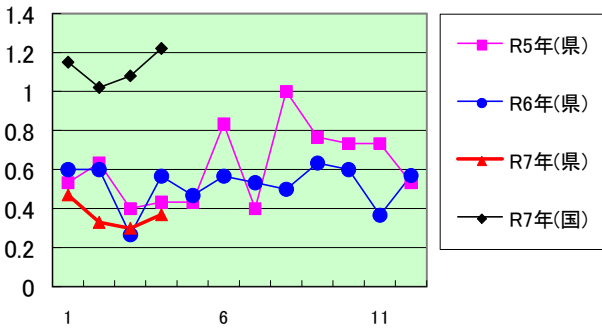
尖圭コンジローマ



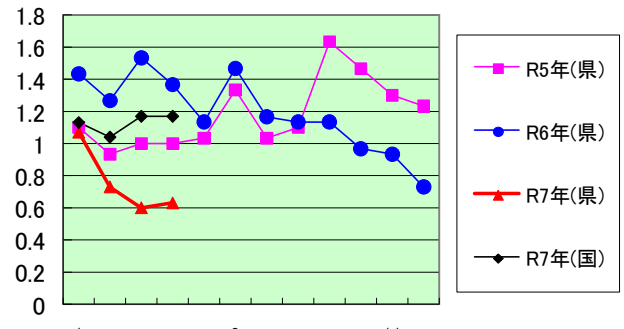
淋菌感染症



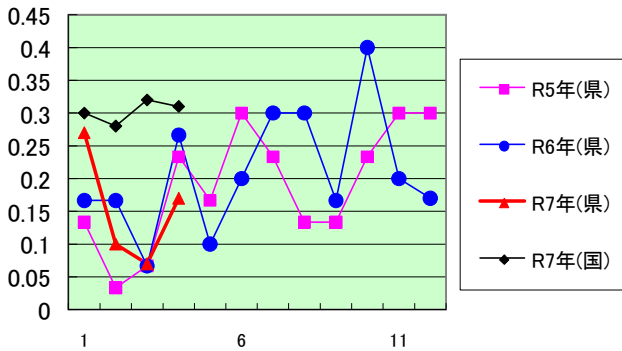
性器クラミジア感染症(男)



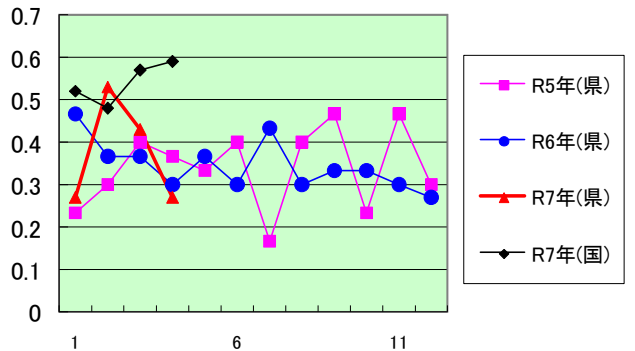
性器クラミジア感染症(女)



性器ヘルペスウイルス感染症(男)

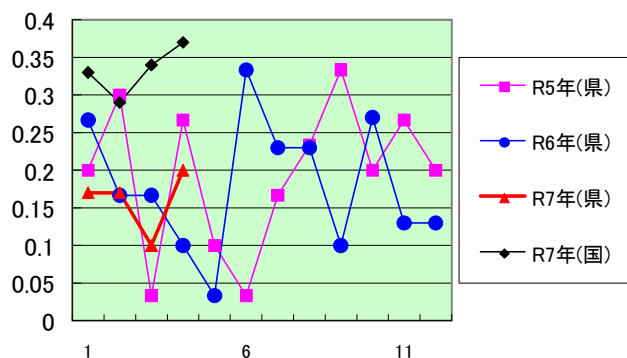


性器ヘルペスウイルス感染症(女)

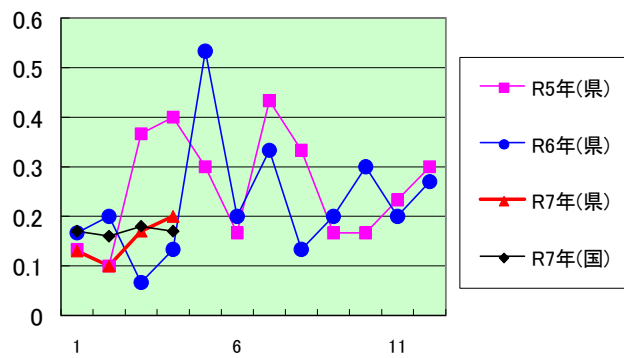


定点把握感染症(月報)推移グラフ

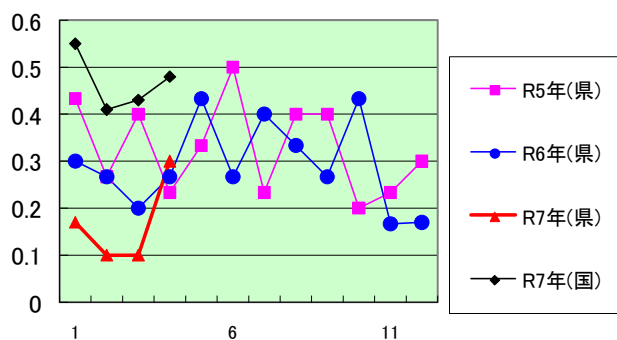
尖圭コンジローマ(男)



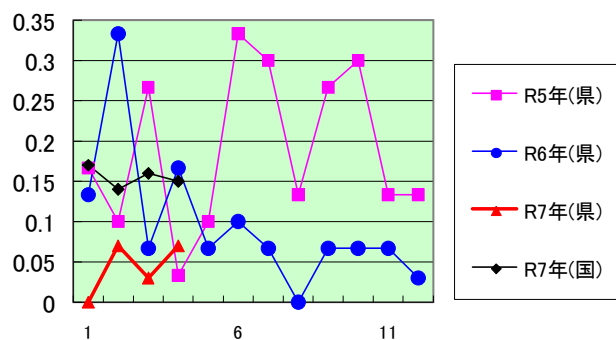
尖圭コンジローマ(女)



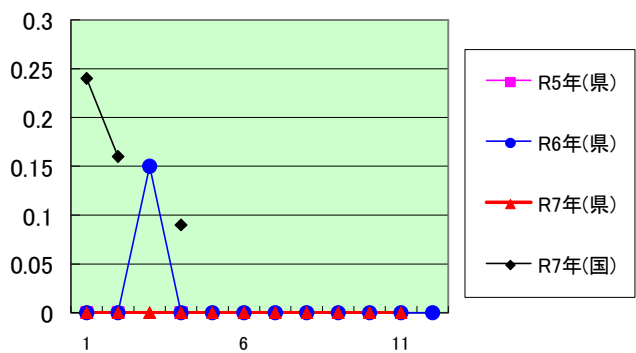
淋菌感染症(男)



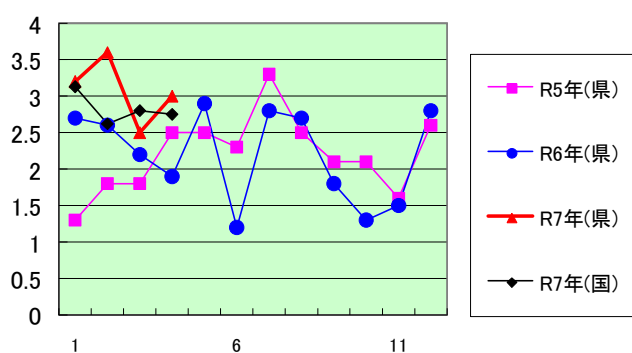
淋菌感染症(女)



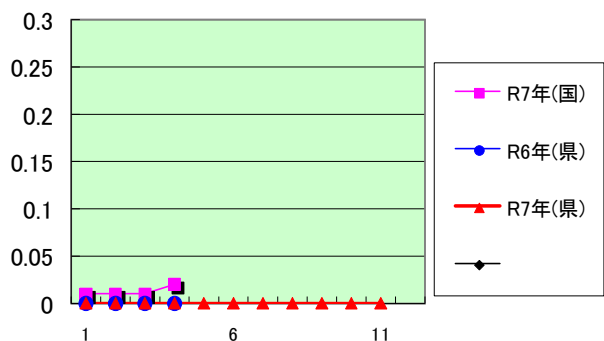
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症



薬剤耐性緑膿菌感染症



定点種別	県内定点数	届出対象感染症
性感染症	30	性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症
基幹	10	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

インフルエンザ施設別発生状況(学級閉鎖)について

2025年

第21週

5/19

$\sim 5/25$

保:保育園 幼:幼稚園 小:小学校 中:中学校 高:高等学校
特支:特別支援学校 こ:こども園 高専:高等専門学校

[illegible]

インフルエンザ施設別発生状況(学級閉鎖)について

2025年

第21週

5/19

～ 5/25

保:保育園 幼:幼稚園 小:小学校 中:中学校 高:高等学校
 特支:特別支援学校 こ:こども園 高専:高等専門学校

市町	学級閉鎖があった 学校・園の施設種別	保	幼	小	中	高	特支	こ	高専	今週 合計	前週	今シーズン 合計
島田市	学校・園の数										0	14
	学校・園の患者数合計										0	158
焼津市	学校・園の数										0	20
	学校・園の患者数合計										0	293
藤枝市	学校・園の数										0	27
	学校・園の患者数合計										0	340
牧之原市	学校・園の数										0	5
	学校・園の患者数合計										0	105
吉田町	学校・園の数										0	2
	学校・園の患者数合計										0	40
川根本町	学校・園の数										0	0
	学校・園の患者数合計										0	0
磐田市	学校・園の数				1					1	0	19
	学校・園の患者数合計				22					22	0	244
掛川市	学校・園の数										0	22
	学校・園の患者数合計										0	256
袋井市	学校・園の数										0	17
	学校・園の患者数合計										0	222
湖西市	学校・園の数										0	12
	学校・園の患者数合計										0	145
御前崎市	学校・園の数										0	3
	学校・園の患者数合計										0	50
菊川市	学校・園の数										0	6
	学校・園の患者数合計										0	61
森町	学校・園の数										0	0
	学校・園の患者数合計										0	0
浜松市中央区	学校・園の数										2	88
	学校・園の患者数合計				25					25	27	1,657
浜松市浜名区	学校・園の数										0	26
	学校・園の患者数合計										0	484
浜松市天竜区	学校・園の数										0	3
	学校・園の患者数合計										0	25
県内合計	学校・園の数				1	1				2	2	503
	学校・園の患者数合計				47	16				63	27	7,560
2024-2025 シーズン 施設別合計	学校・園の数	6	24	300	96	65	5	7				
	学校・園の患者数合計	61	248	4,292	1,445	1,350	95	69				

・第21週のインフルエンザの定点当たり患者数は0.28です。

・インフルエンザの流行は終息していますが、引き続き、咳エチケット※、手洗い、換気等、基本的な感染対策をお願い致します。

(※ 咳をするときに服のそでやハンカチで口鼻をおおう、マスクの適切な着用が可能なら咳の出るときはマスクを着ける)

新型コロナ変異株ゲノム解析結果について

（2月24日（月）～3月23日（日）分の集計）

2月中旬～3月中旬に発症した方について、国立遺伝学研究所（三島市）において実施したゲノム解析の結果は、以下のとおりです。（県所管分）

結果判明日：3月7日（金）・3月16日（日）・3月23日（日）

<変異株の件数>

保健所	賀茂	熱海	東部	御殿場	富士	中部	西部	合計
デルタ株	0	0	0	0	0	0	0	0
オミクロン株	0	0	1	0	0	0	13	14
	(内BA.2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)	(6)
	(内BA.5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	(内組換え体)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(7)	(8)

本県の変異株の判明状況（3月23日時点）

		合計	県	静岡市	浜松市
合計 (デルタ株+オミクロン株)	判明者数	11,251	6,400	2,480	2,371
	(前回からの増加数)	(24)	(14)	(0)	(10)
デルタ株 (R3.5.16～)	判明者数	2,411	1,256	648	507
	(前回からの増加数)	(0)	(0)	(0)	(0)
オミクロン株 (R4.1.1～)	判明者数	8,840	5,144	1,832	1,864
	(前回からの増加数)	(24)	(14)	(0)	(10)
※オミクロン株 【内、BA.2】	判明者数	2,123	1,103	560	460
	(前回からの増加数)	(9)	(6)	(0)	(3)
※オミクロン株 【内、BA.5】	判明者数	3,515	2,399	831	285
	(前回からの増加数)	(0)	(0)	(0)	(0)
※オミクロン株 【内、組換え体】	判明者数	878	517	106	255
	(前回からの増加数)	(15)	(8)	(0)	(7)

※県：国立遺伝学研究所および国立感染症研究所でゲノム解析を実施

静岡市：国立感染症研究所でゲノム解析を実施

浜松市：浜松市保健環境研究所でゲノム解析を実施

本県の変異株（オミクロン株）の判明状況（3月23日時点）

	オミクロン株判明数				全オミクロン株に占める割合		
	合計	内、BA. 2	内、BA. 5	内、組換え体	BA. 2	BA. 5	組換え体
2月26日（月）～ 3月24日（日）	63	50	0	13	79.4%	0.0%	20.6%
3月25日（月）～ 4月21日（日）	82	72	0	10	87.8%	0.0%	12.2%
4月22日（月）～ 5月26日（日）	19	19	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
5月27日（月）～ 6月23日（日）	40	40	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
6月24日（月）～ 7月21日（日）	90	90	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
7月22日（月）～ 8月25日（日）	116	116	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
8月26日（月）～ 9月22日（日）	107	106	0	1	99.1%	0.0%	0.9%
9月23日（月）～ 10月20日（日）	27	26	0	1	96.3%	0.0%	3.7%
10月21日（月）～ 11月24日（日）	31	31	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
11月25日（月）～ 12月22日（日）	21	17	0	4	81.0%	0.0%	19.0%
12月23日（月）～ 1月26日（日）	44	26	0	18	59.1%	0.0%	40.9%
1月27日（月）～ 2月23日（日）	28	14	0	14	50.0%	0.0%	50.0%
2月24日（月）～ 3月23日（日）	24	9	0	15	37.5%	0.0%	62.5%

ゲノム解析結果の系統別判明数（政令市含む） （2月23日（月）～3月23日（日）判明分）

系統名※	判明数	割合
JN. 1	0	0.0%
KP. 3	9	37.5%
その他のKP	0	0.0%
XEC	15	62.5%
XDQ	0	0.0%
その他	0	0.0%
計	24	100.0%

XEC系統15件のうち、XECが最多で11件

※国立感染症研究所「新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株 BA. 2.86 系統について 第2報」及び「新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株 KP.3 系統について」において、「ウイルス学的・疫学的・臨床的知見の収集と、国内外での発生状況の監視を継続する必要がある」とされている系統等、重要と思われる変異株の系統を掲載しています。